

コロナ禍が教育格差にもたらす影響調査

【詳細資料集】

2021年7月

日本財団
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

<目 次>

1. 調査の概要	1
(1) 調査目的・背景.....	1
(2) アンケート調査の概要.....	1
(3) 本資料集の構成.....	2
2. コロナ禍がもたらした勉強時間への影響	3
(1) 臨時休校期間別.....	3
(2) 世帯年収別.....	4
(3) 成績別.....	6
(4) 世帯類型別.....	8
(5) 学校段階別.....	10
3. 学校・自治体の取組みと勉強時間への影響	12
(1) 学校・自治体による学習手段・教材の提供状況（2020年5月）.....	12
(2) 学校・自治体の学習手段・教材の提供状況別の勉強時間の変化.....	16
4. コロナ禍がもたらした生活時間への影響	22
(1) 生活時間の推移.....	22
(2) 臨時休校期間別のスクリーンタイム.....	23
(3) 成績（2019年度）別のスクリーンタイム.....	24
(4) 世帯類型別のスクリーンタイム.....	25
5. コロナ禍における時間利用と成績の関係	26
6. 非認知能力・生活習慣等の変化と学校行事との関係	31
(1) 臨時休校期間と非認知能力・生活習慣等の変化.....	31
(2) 学校での生活や活動の充実度合いの変化と学力の変化.....	34
(3) 課外活動の時間の変化と学校での生活や活動の充実度合いの変化.....	35
(4) 学校行事の中止・縮小と非認知能力・生活習慣等への影響分析.....	38
(5) 非認知能力・生活習慣等の変化が学校の成績に与える影響.....	42
7. 分析結果のまとめと示唆	44
(1) 分析結果のまとめ.....	44

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

(2) 今後に向けた示唆..... 45

参考資料：アンケート調査票..... 47

1. 調査の概要

(1) 調査目的・背景

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の感染拡大は、子どもたちの生活や教育に対してさまざまな影響を及ぼしている。具体的には、2020年3月以降に行われた小学校、中学校、高等学校および特別支援学校に対する一斉休校や、その後の学校生活や行事、部活動等の制限などによって、子どもたちの学校生活・日常生活は大きく変化した。新型コロナの影響が拡大・長期化するなか、学校や自治体、家庭ではさまざまな工夫が続けられているが、コロナ禍は、とりわけ年収の低い世帯や一人親世帯など、もともと厳しい状況に置かれていた子どもにより大きな影響を与えており、教育格差の拡大が危惧される。

そこで本調査では、小学生から高校生の子どものいる世帯の親4,000人に対して実施した独自のアンケート調査を用いて、コロナ禍がもたらした勉強時間への影響、学校・自治体の取組みと勉強時間の関係、非認知能力等の変化と学校行事との関係について明らかにする。またそれらの影響が、世帯年収や世帯類型など、子どもが置かれていたもともとの状況とどのように関連しているのかを分析する。

(2) アンケート調査の概要

本調査では、小学生から高校生の子どものいる世帯の親4,000人に対して独自のアンケート調査を実施し、それに基づいた分析を行う。アンケート調査の概要は図表1のとおりである。アンケートは2021年3月に実施した。主な調査項目は、世帯の経済状況、臨時休校の状況、学校行事の実施状況、学習塾等の利用状況、1日の時間の使い方等である。調査項目の詳細についてはp.48以降の調査票を参照されたい。

図表 1 アンケート調査の概要

対象	小学生から高校生の子どものいる世帯の親4,000人
調査方法	インターネットアンケート調査会社のモニターを利用したweb調査
調査実施期間	2021年3月8日～3月18日
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">世帯の年間所得子どもが通う学校の臨時休校の状況学校行事の実施状況学習塾・家庭教師等の利用状況学校や自治体等から提供された学習手段・教材等1日の時間の使い方学校での成績生活習慣・非認知能力等

(3) 本資料集の構成

本資料集の構成は以下のとおりである。

第2節および第3節では、コロナ禍がもたらした勉強時間への影響を分析する。第2節では、休校期間別、世帯年収別、成績別等、詳細に分析する。第3節では、勉強時間と学校・自治体の取組みとの関係性を分析する。新型コロナの感染拡大に伴う臨時休校期間中は、学校・自治体からさまざまな学習手段・教材が提供された。そうした取組みが勉強時間にどういった影響を与えたのかを分析する。

第4節では勉強時間以外の生活時間への影響、とりわけスクリーンタイム（テレビやゲーム、インターネット、携帯電話を使用する時間）への影響を分析する。第5節では、こうした勉強時間や生活時間の変化が、子どもたちの成績にどのような影響を及ぼしたのかについて分析する。

新型コロナは、子どもたちの非認知能力や学校生活、生活習慣等にも大きな影響を与えたと考えられる。第6節ではそれらの変化を確認するとともに、学校行事の中止・縮小が非認知能力等にどういった影響を与えたのかを分析する。

第7節では、分析結果のまとめと示唆を整理する。

2. コロナ禍がもたらした勉強時間への影響

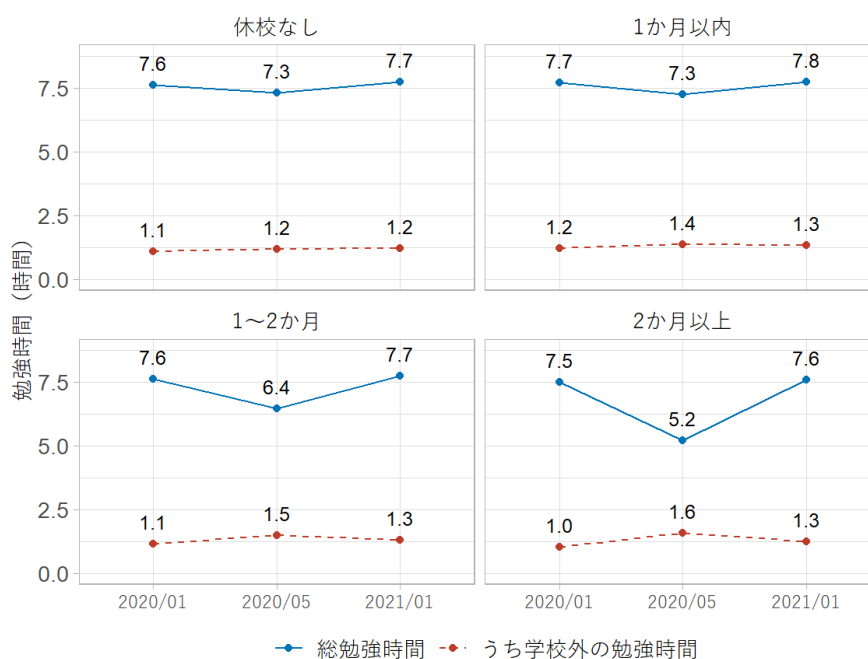
本節では、新型コロナによる臨時休校前後の学習面への影響を把握するため、新型コロナ以前（2020年1月）、全国的な臨時休校期間（2020年5月）、臨時休校後（2021年1月）の平均的な勉強時間の推移の属性別の違いを確認する。なお、勉強時間の分析では、学校段階が変化したことによる影響を除くため、小学1年生、中学1年生、高校1年生は分析から除外している。また、睡眠時間、その他の生活時間、2020年1月時点の学校での勉強時間を0時間と回答した世帯は誤回答の可能性が高いため、すべての時間利用に関する集計から除外している。

(1) 臨時休校期間別

図表2は、2020年2月から6月の間の臨時休校期間別に総勉強時間および学校外の勉強時間の推移を示したものである。勉強時間は、学校のある平均的な平日の数値である。休校期間が長いほど全国的な臨時休校措置がとられた2020年5月に総勉強時間が顕著に減少している。図表3は学校外の勉強時間のみを抜き出したものであり、休校期間が長いほど2020年5月に増加しているが、学校外の勉強だけでは、減少した学校での勉強時間を穴埋めしきれていない可能性が示唆される。

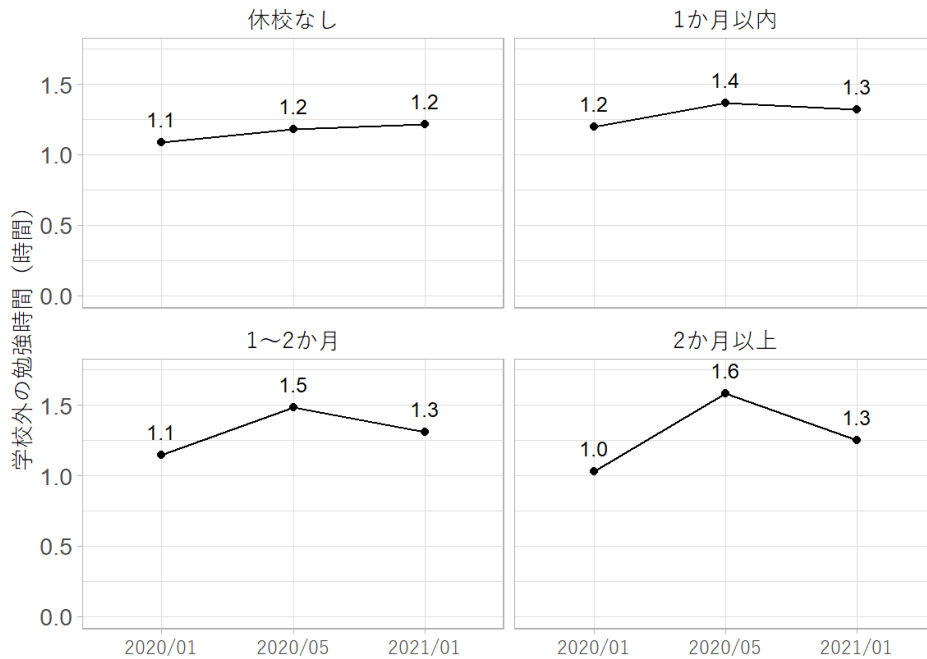
一方で、2021年1月の勉強時間は2020年1月よりも高い水準で留まっており、2か月以上の休校を経験した子どもでは平均して15分程度コロナ以前よりも学校外の勉強時間が増加している。

図表2 臨時休校期間別 勉強時間の推移



(注)「休校なし」はn=213、「1か月以内」はn=715、「1~2か月」はn=913、「2か月以上」はn=917。

図表 3 臨時休校期間別 学校外の勉強時間の推移

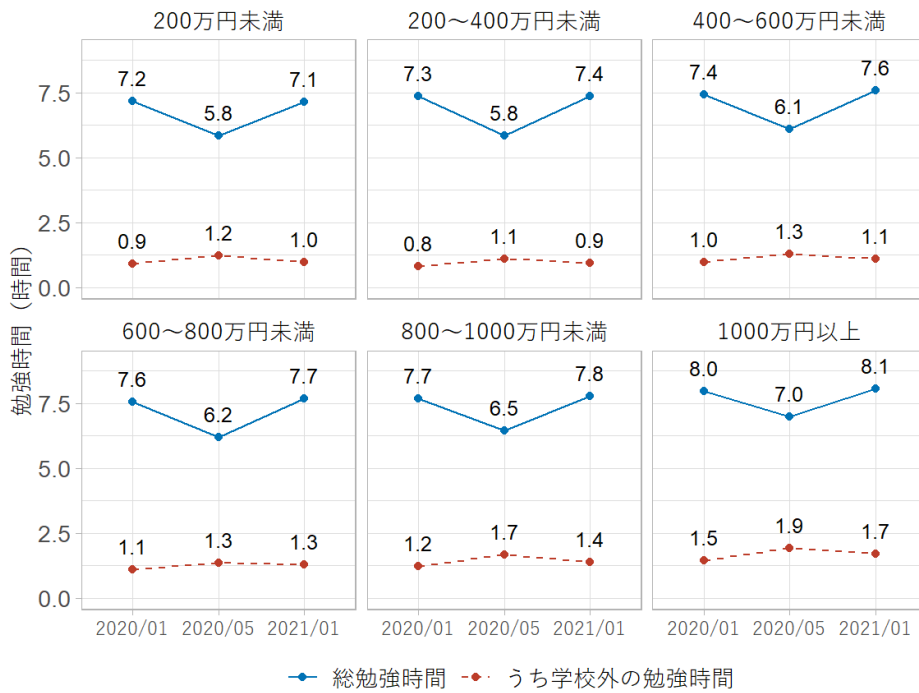


(注) 「休校なし」は n=213、「1か月以内」は n=715、「1～2か月」は n=913、「2か月以上」は n=917。

(2) 世帯年収別

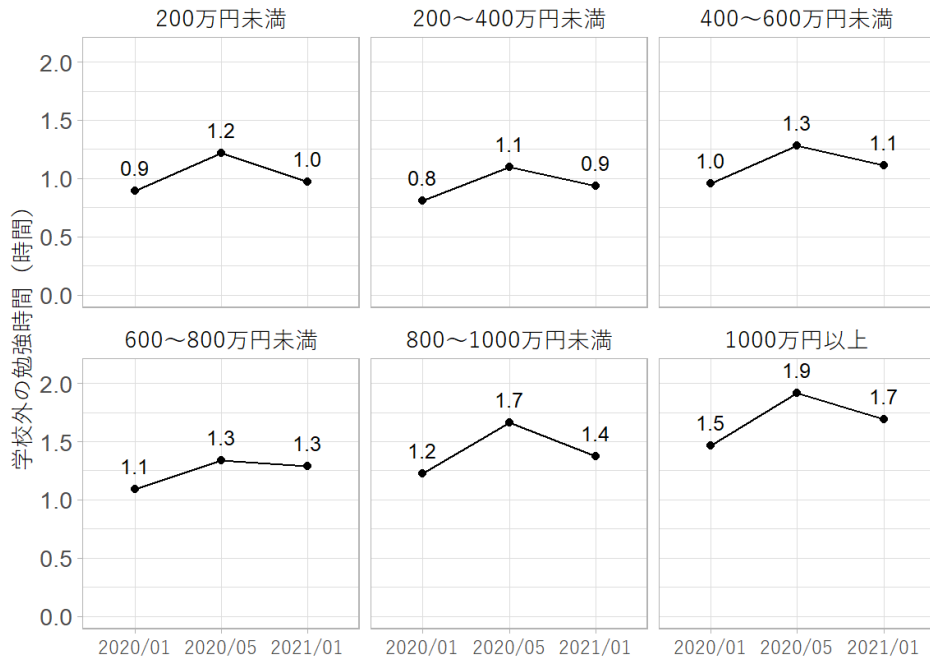
図表 4 には世帯年収別に勉強時間（総勉強時間および学校外の勉強時間）の推移を示した。いずれの世帯年収区分でも 2020 年 5 月には総勉強時間が減少しているが、世帯年収 800 万円以上の世帯では 2020 年 1 月から 5 月にかけての総勉強時間の減少幅が小さい。また、図表 5 は学校外の勉強時間のみを抜き出したものであり、世帯年収 800 万円以上の世帯では、2020 年 1 月から 2020 年 5 月にかけての学校外の勉強時間の増加幅が大きくなっていることがわかる。また、世帯年収の高い世帯は低い世帯と比較して、2021 年 1 月の学校外の勉強時間が高止まりしている傾向があり、臨時休校による勉強時間の減少を取り戻すために世帯年収が高い世帯では継続的に学校外教育投資を行っている可能性が示唆される。

図表 4 世帯年収別 勉強時間の推移



(注) 「200万円未満」はn=150、「200～400万円未満」はn=337、「400～600万円未満」はn=613、「600～800万円未満」はn=658、「800～1000万円未満」はn=413、「1000万円以上」はn=587。

図表 5 世帯年収別 学校外の勉強時間の推移

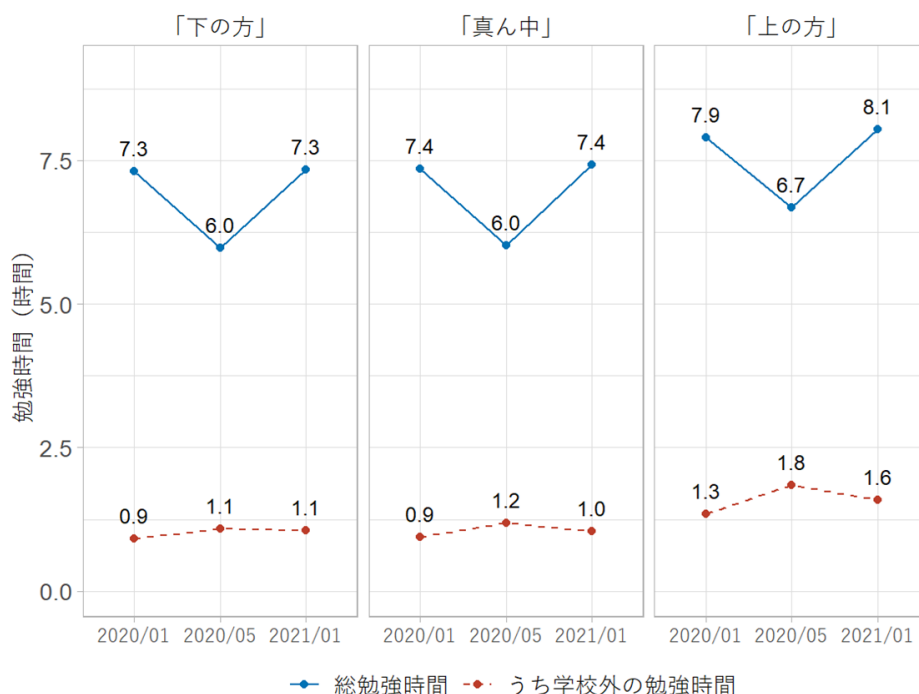


(注) 「200万円未満」はn=150、「200～400万円未満」はn=337、「400～600万円未満」はn=613、「600～800万円未満」はn=658、「800～1000万円未満」はn=413、「1000万円以上」はn=587。

(3) 成績別

図表 6 は、2019 年度の成績別に勉強時間（総勉強時間および学校外の勉強時間）の推移を示したものである¹。成績が下の方と回答した世帯と真ん中と回答した世帯では総勉強時間の推移に大きな違いは見られないが、上の方と回答した世帯では、総勉強時間・学校外の勉強時間も長くなっている。また、図表 7 は学校外の勉強時間のみを抜き出したものであり、成績が上の方と回答した世帯では 2020 年 5 月に学校外の勉強時間が平均して 30 分程度増加しており、休校措置が解除された 2021 年 1 月時点でも学校外の勉強時間が前年 1 月よりも 15 分程度増加している。

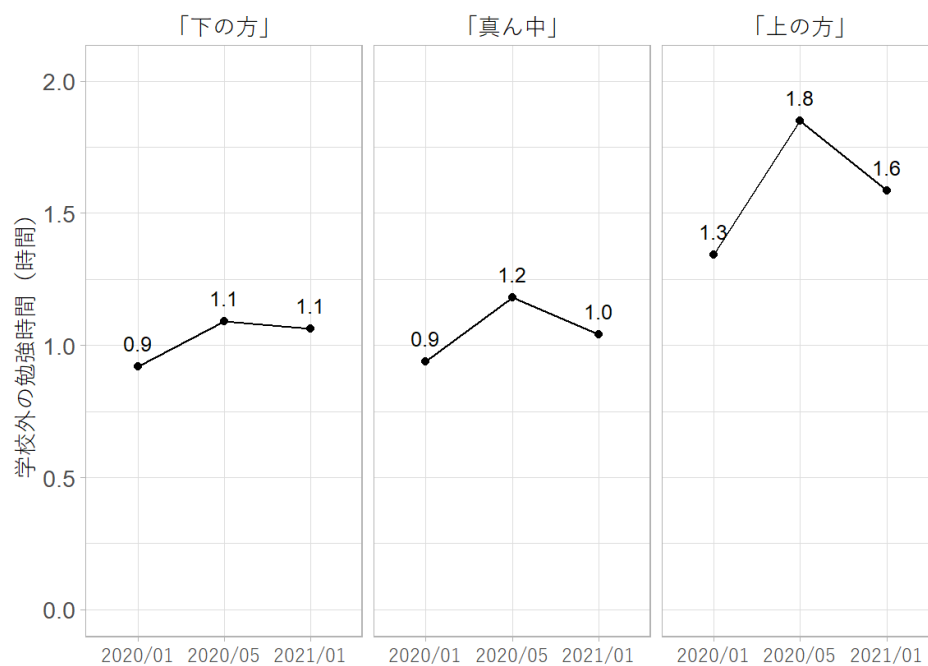
図表 6 2019 年度の成績別 勉強時間の推移



(注) 「下の方」は n=473、「真ん中」は n=1058、「上の方」は n=1227。

¹ アンケート調査では学校での成績を 7 段階（1 が最も低く、7 が最も高い）で調査しており、1～3 を「下の方」、4 を「真ん中」、5～7 を「上の方」と区分している。

図表 7 2019 年度の成績別 学校外の勉強時間の推移

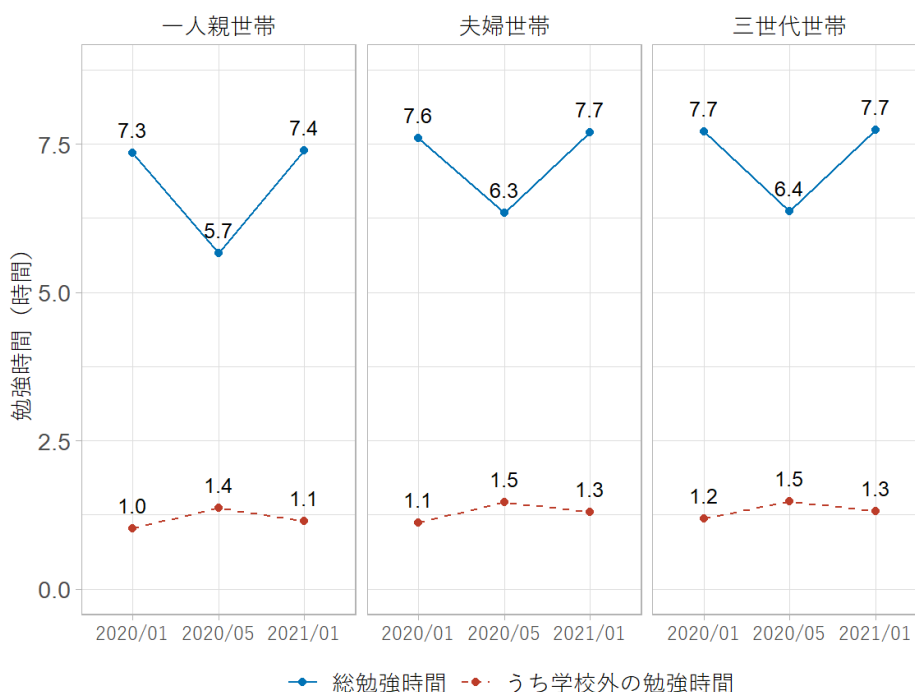


(注) 「下の方」はn=473、「真ん中」はn=1058、「上の方」はn=1227。

(4) 世帯類型別

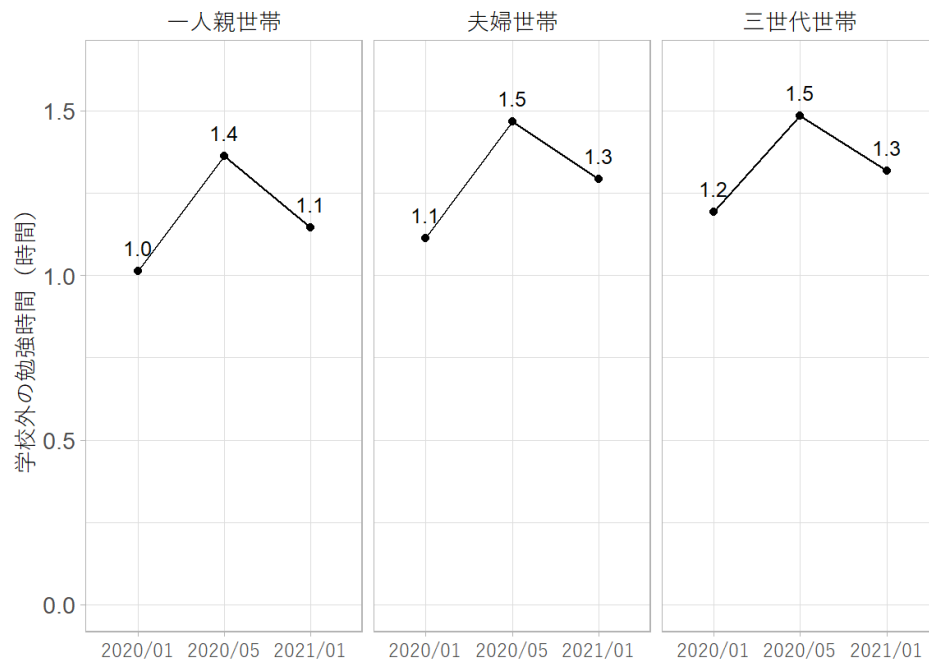
図表 8 には世帯類型別に勉強時間（総勉強時間および学校外の勉強時間）の推移を示した。夫婦世帯や三世帯世帯と比較して、一人親世帯では2020年1月から5月にかけての総勉強時間の減少幅が顕著に大きい。一方、図表 9 に示したとおり、学校外の勉強時間の変化幅には世帯類型による大きな違いは見られず、いずれの世帯類型でも2021年1月の学校外勉強時間は前年1月と比較して高い水準になっている。

図表 8 世帯類型別 勉強時間の推移



(注) 「一人親世帯」は n=144、「夫婦世帯」は n=2337、「三世帯世帯」は n=277。

図表 9 世帯類型別 学校外の勉強時間の推移

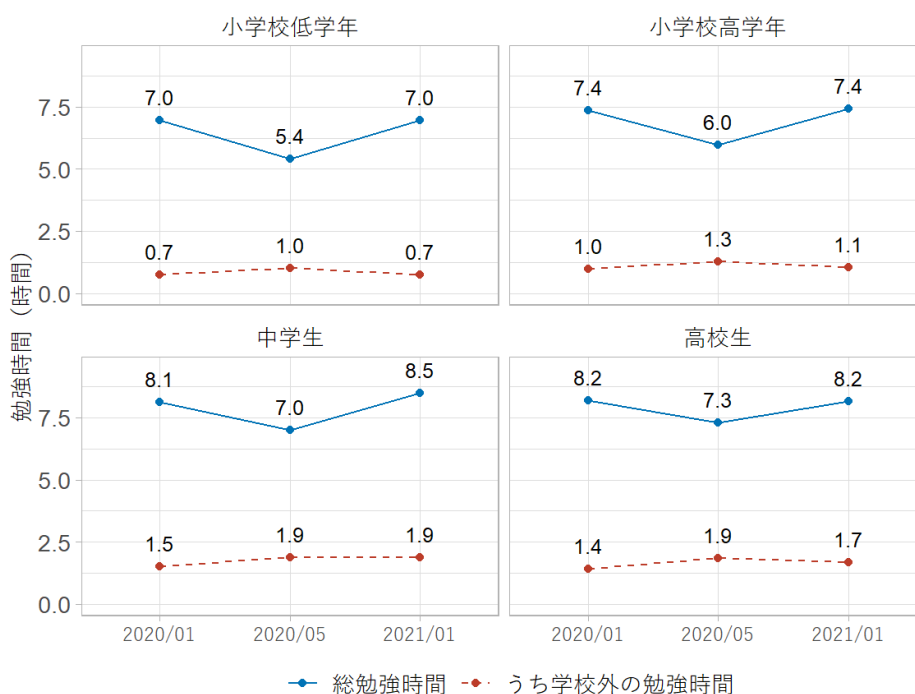


(注) 「一人親世帯」は n=144、「夫婦世帯」は n=2337、「三世代世帯」は n=277。

(5) 学校段階別

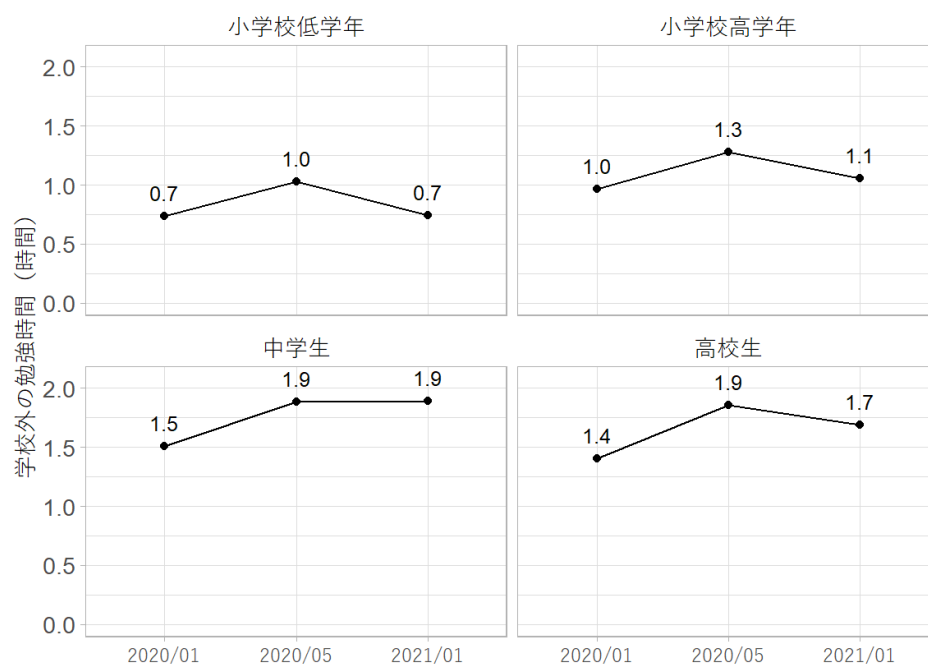
図表 10 には学校段階別に勉強時間（総勉強時間および学校外の勉強時間）の推移を示した。2020 年 5 月の総勉強時間の減少幅は中高生と比較して小学生のほうが大きくなっており、臨時休校の影響は学校段階が早いほど大きい可能性が示唆される。また、図表 11 は学校外の勉強時間のみを抜き出したものであり、中学生と高校生のほうが小学生と比較して 2020 年 1 月から 5 月にかけての学校外の勉強時間の増加幅が大きく、2021 年 1 月時点でも前年 1 月より高い水準を維持していることがわかる。なお、世帯年収別に学校段階による勉強時間の推移を確認しても、この傾向は大きく変わらなかった。

図表 10 学校段階別 勉強時間の推移



(注) 「小学校低学年」は n=716、「小学校高学年」は n=883、「中学生」は n=647、「高校生」は n=512。

図表 11 学校段階別 学校外の勉強時間の推移



(注) 「小学校低学年」は n=716、「小学校高学年」は n=883、「中学生」は n=647、「高校生」は n=512。

3. 学校・自治体の取組みと勉強時間への影響

2020年の臨時休校中、学校や自治体からさまざまな学習手段・教材が提供された。本節では、どういった学習手段・教材やデバイスが提供されていたのかを概観するとともに、学校・自治体の取組みが子どもたちの勉強時間にどういった影響を与えたのかを検証する。

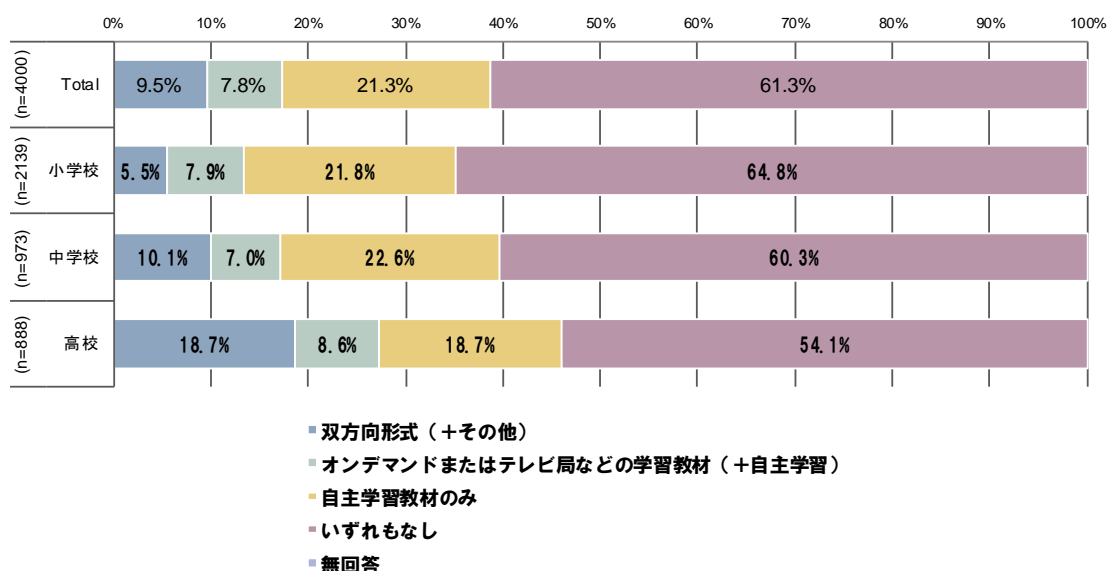
(1) 学校・自治体による学習手段・教材の提供状況（2020年5月）

学校・自治体による学習手段・教材の提供状況を確認していく。図表12は子どもの学校段階別に、2020年5月に学校・自治体から提供されていた学習手段や教材の状況を示したものである。学校段階が進むほど「双方向形式（+その他）」が実施されていた割合が高い。

図表13は同様のグラフを学校の設置主体別に示したものである。学校の設置主体が国立や私立の場合、「双方向形式（+その他）」を実施している割合が高い。また、図表14は学校の設置主体別にPC・タブレットの提供状況を示したものであり、学校の設置主体が国立や私立の場合は「提供あり」の割合が高い。

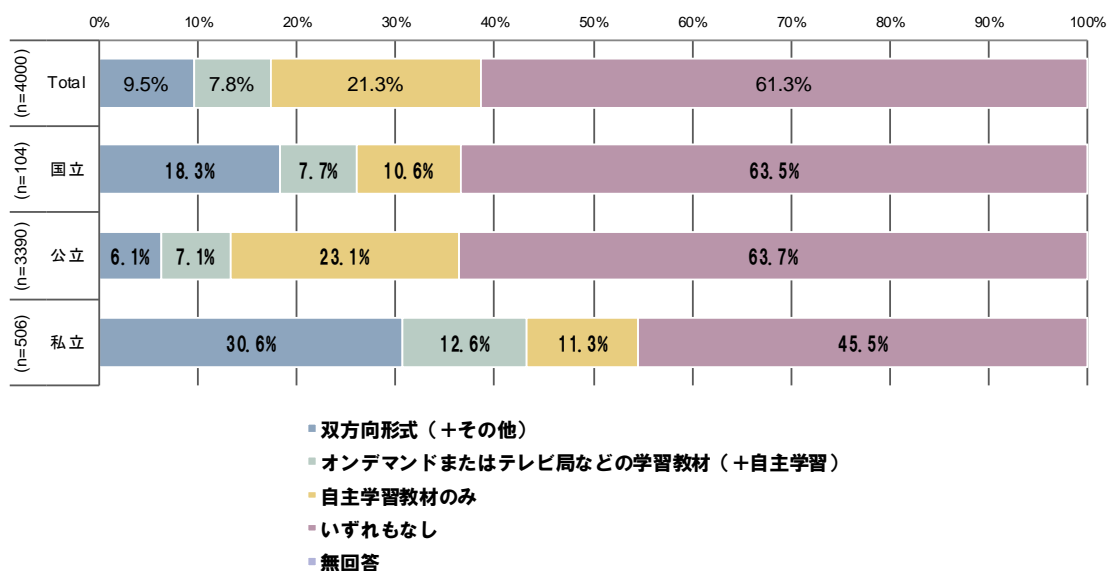
図表15および図表16には、臨時休校期間別に学校・自治体による学習教材の提供状況やPC・タブレットの提供状況を示したが、いずれも臨時休校期間との明確な関係性は見られない。

図表12 子どもの学校段階別 学校・自治体による学習手段・教材の提供状況
(2020年5月)



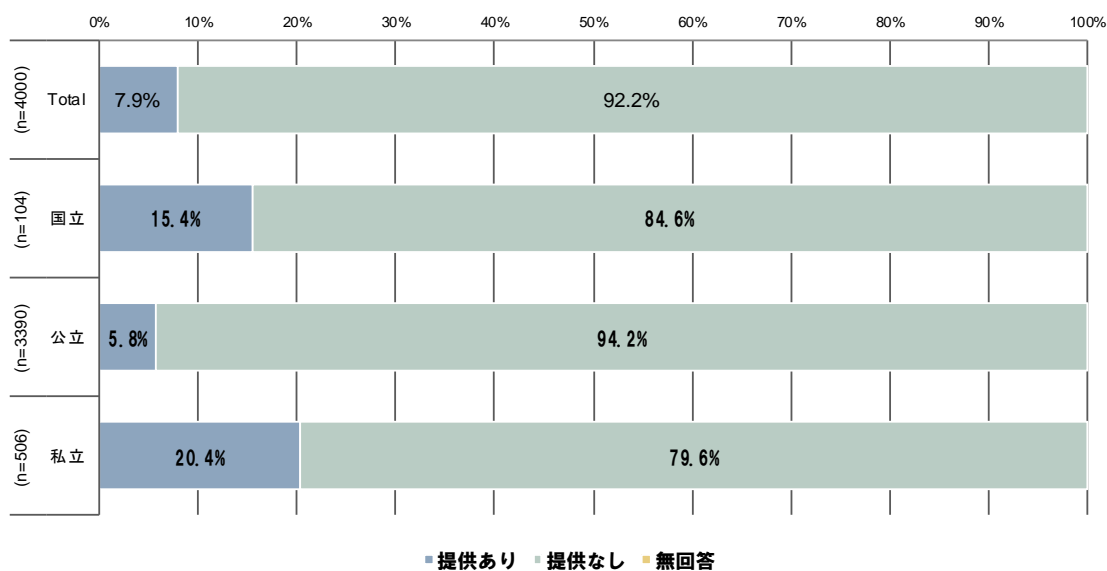
(注)「双方向形式（+その他）」には、「双方向形式」かつ「オンデマンドまたはテレビ局などの学習教材」または「自主学習教材」の提供を受けた者を含む。

図表 13 学校の設置主体別 学校・自治体による学習手段・教材の提供状況
(2020年5月)



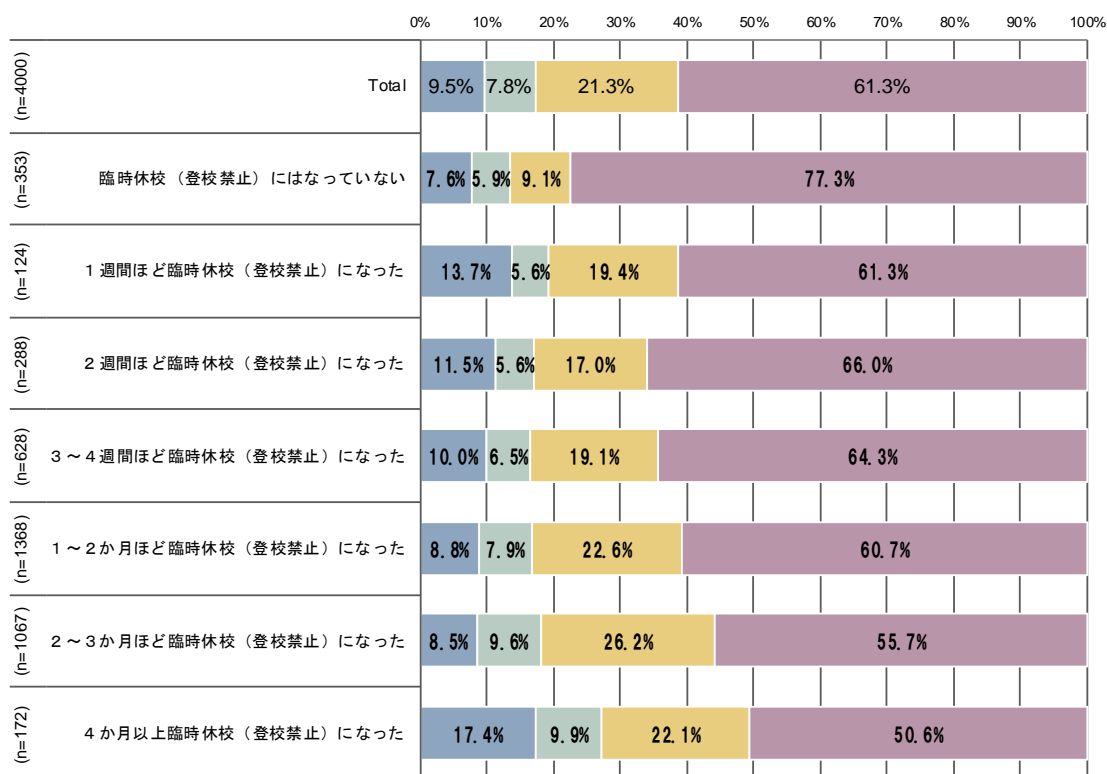
(注) 「双方向形式(+その他)」には、「双方向形式」かつ「オンデマンドまたはテレビ局などの学習教材」または「自主学習教材」の提供を受けた者を含む。

図表 14 学校の設置主体別 学校・自治体によるPC・タブレットの提供状況
(2020年5月)



(注) 学校や自治体から「1人1台のパソコン・タブレットPC」または「共用のパソコン・タブレットPC」の提供があったと回答した者を「提供あり」、それ以外を「提供なし」としている。

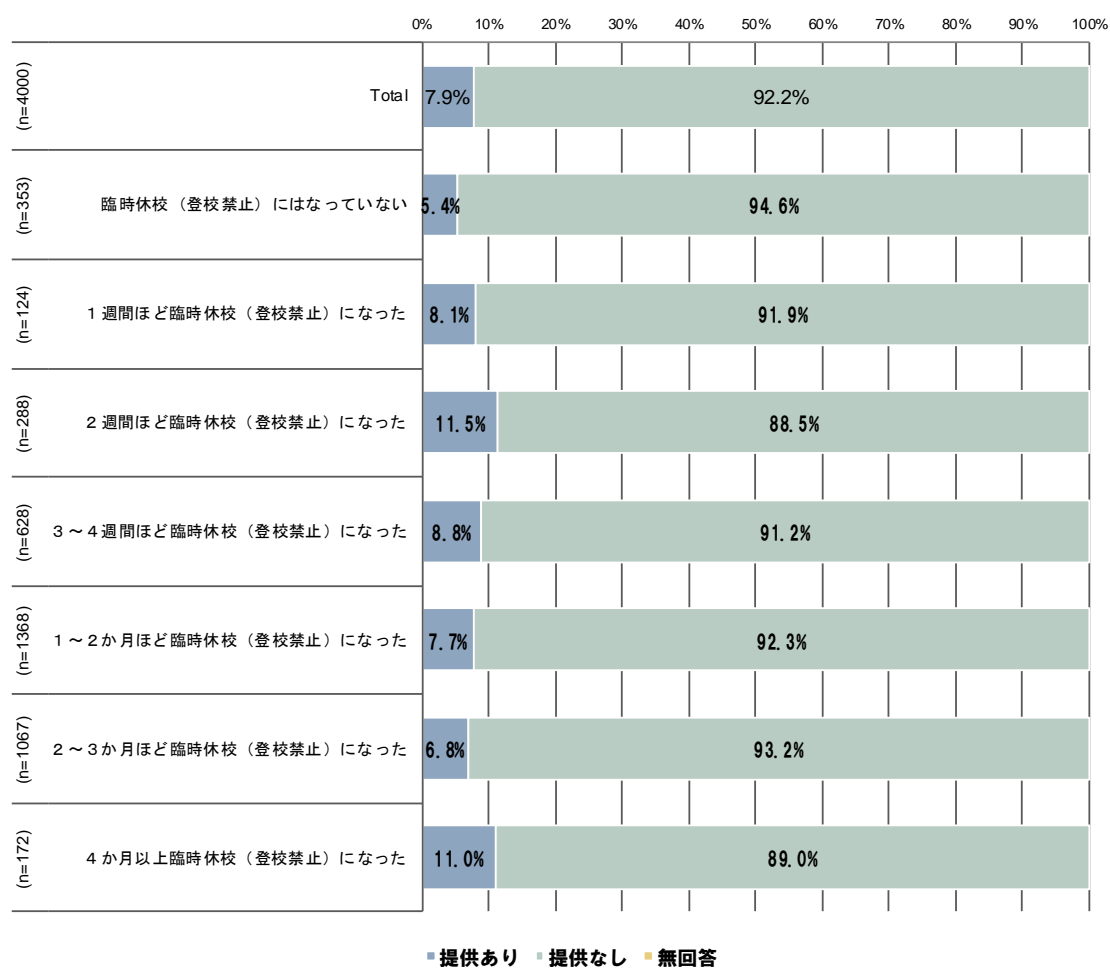
図表 15 臨時休校期間別 学校・自治体による学習教材の提供状況（2020年5月）



- 双方向形式（+その他）
- オンデマンドまたはテレビ局などの学習教材（+自主学習）
- 自主学習教材のみ
- いずれもなし
- 無回答

（注）「双方向形式（+その他）」には、「双方向形式」かつ「オンデマンドまたはテレビ局などの学習教材」または「自主学習教材」の提供を受けた者を含む。

図表 16 臨時休校期間別 学校・自治体による PC・タブレットの提供状況
(2020 年 5 月)

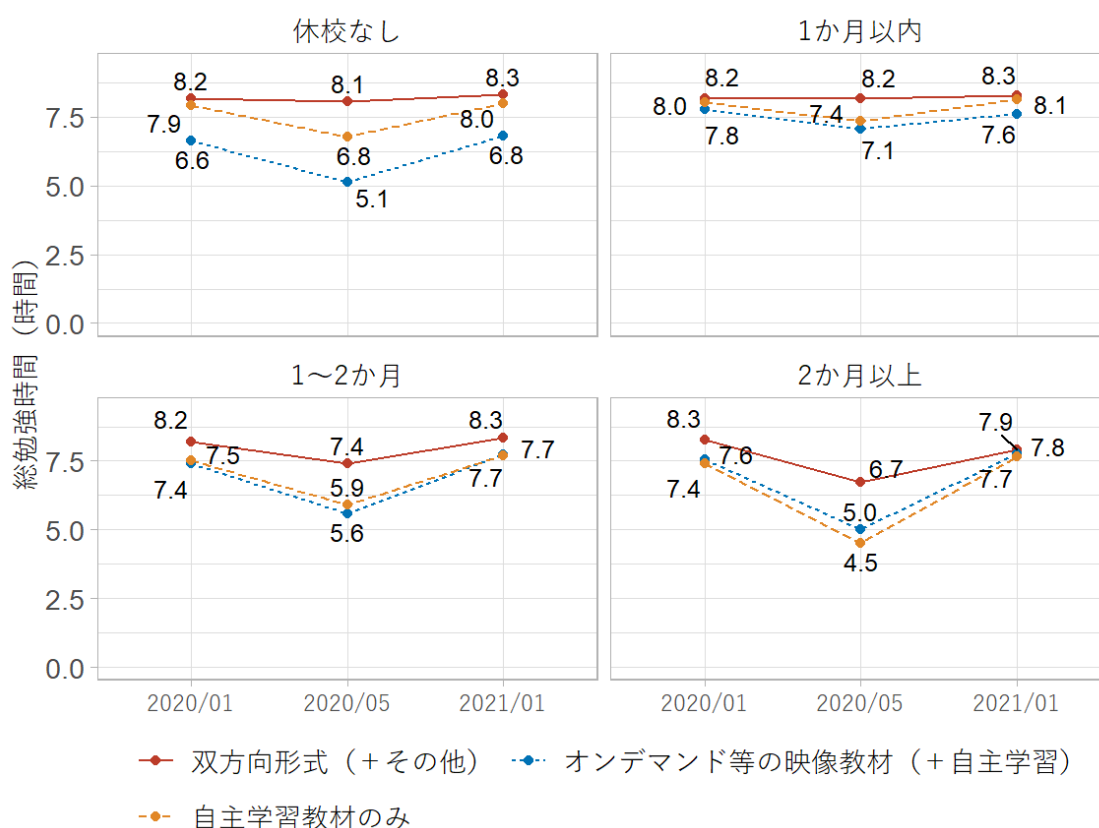


(2) 学校・自治体の学習手段・教材の提供状況別の勉強時間の変化

それではこうした学校・自治体の取組みの違いは、子どもたちの勉強時間にどのような影響を与えたのだろうか。

図表 17 には 2020 年 5 月の学校・自治体の学習手段・教材の提供別・休校期間別の勉強時間の推移を示した。休校期間にかかわらず双方向形式のオンライン授業が提供されている場合、2020 年 5 月の勉強時間の減少幅が小さく抑えられており、双方向形式のオンライン授業がコロナ禍における勉強を下支えしている可能性が示唆される。一方で、オンデマンド等の映像教材の提供と自主学习教材の提供では勉強時間の変化に大きな違いは見られない。

図表 17 学習手段・教材の提供状況別・休校期間別 勉強時間の推移



(注) 「休校なし」のうち双方向形式 (+ その他) は n=13、オンデマンド等の映像教材 (+ 自主学习) は n=16、自主学习教材のみは n=23。

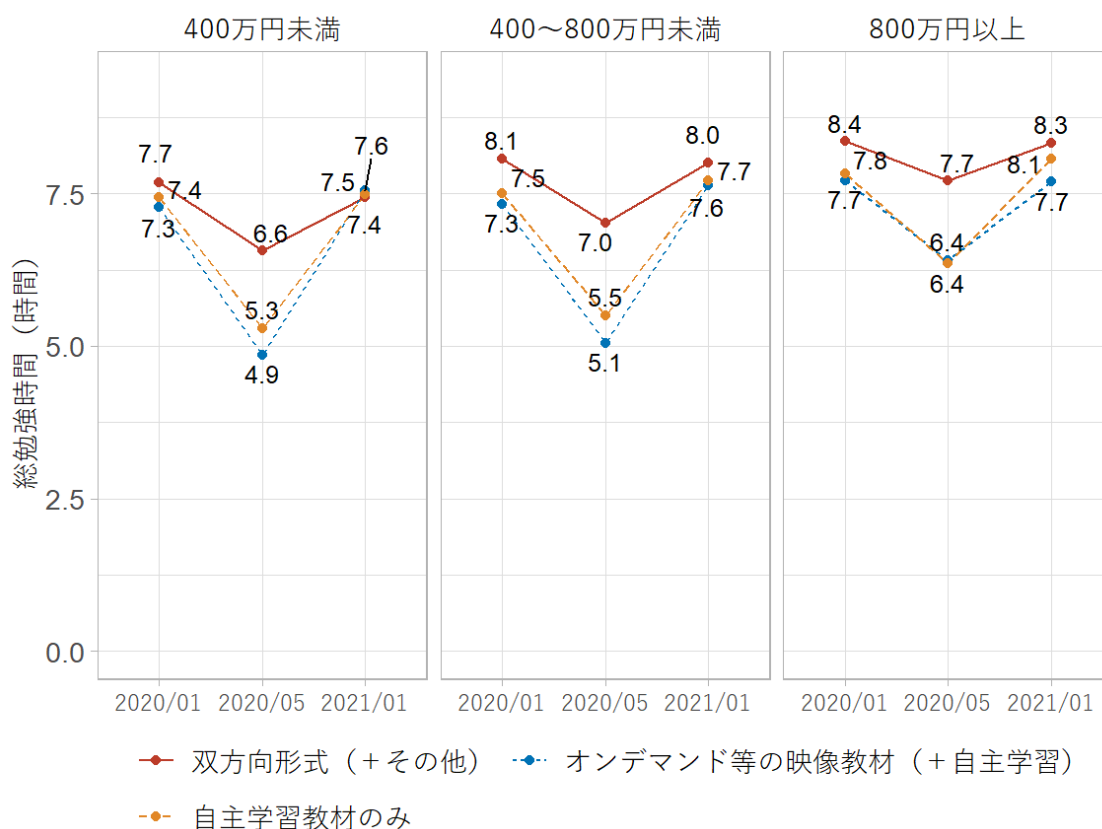
「1か月以内」のうち双方向形式 (+ その他) は n=58、オンデマンド等の映像教材 (+ 自主学习) は n=42、自主学习教材のみは n=141。

「1~2か月」のうち双方向形式 (+ その他) は n=75、オンデマンド等の映像教材 (+ 自主学习) は n=71、自主学习教材のみは n=217。

「2か月以上」のうち双方向形式 (+ その他) は n=84、オンデマンド等の映像教材 (+ 自主学习) は n=90、自主学习教材のみは n=230。

図表 18 には 2020 年 5 月の学校・自治体の学習手段・教材の提供状況別・世帯年収別の勉強時間の推移を示した。全体として、双方向形式のオンライン授業の提供があった場合に 2020 年 5 月の勉強時間の減少幅が小さく抑えられている。

図表 18 学習手段・教材の提供状況別・世帯年収別 勉強時間の推移



(注)「400万円未満」のうち双方向形式(+その他)は n=16、オンデマンド等の映像教材(+自主学習)は n=36、自主学習教材のみは n=107。

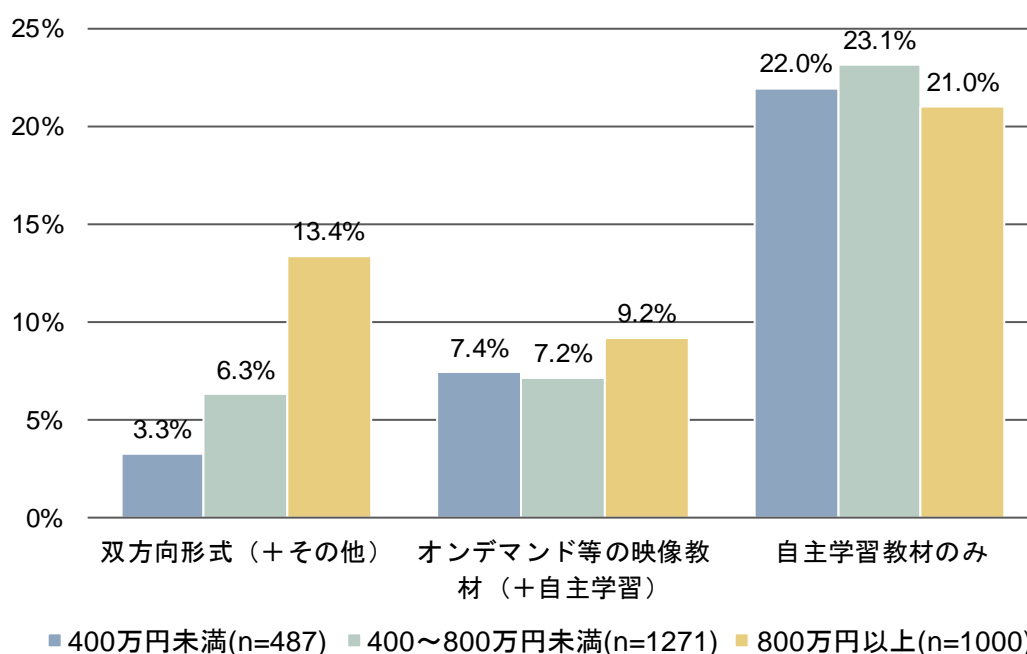
「400~800万円未満」のうち双方向形式(+その他)は n=80、オンデマンド等の映像教材(+自主学習)は n=91、自主学習教材のみは n=294。

「800万円以上」のうち双方向形式(+その他)は n=134、オンデマンド等の映像教材(+自主学習)は n=92、自主学習教材のみは n=210。

図表 19 には 2020 年 5 月の学校・自治体の学習手段・教材の提供状況を、世帯年収別に示した。オンデマンド等の映像教材の提供割合や自主学習教材の提供割合に、世帯年収別の差はほとんど見られない。しかしながら、双方向形式のオンライン授業については、800 万円以上の世帯の 13.4%が提供されているのに対して、400 万円未満の世帯では 3.3%にとどまっている。この背景として、低所得世帯は通信環境等によって双方向形式のオンライン授業に十分に対応できていない可能性や、私立や国立に通っている割合が低いことが考えられる。

図表 19 世帯年収別 学習手段・教材の提供状況

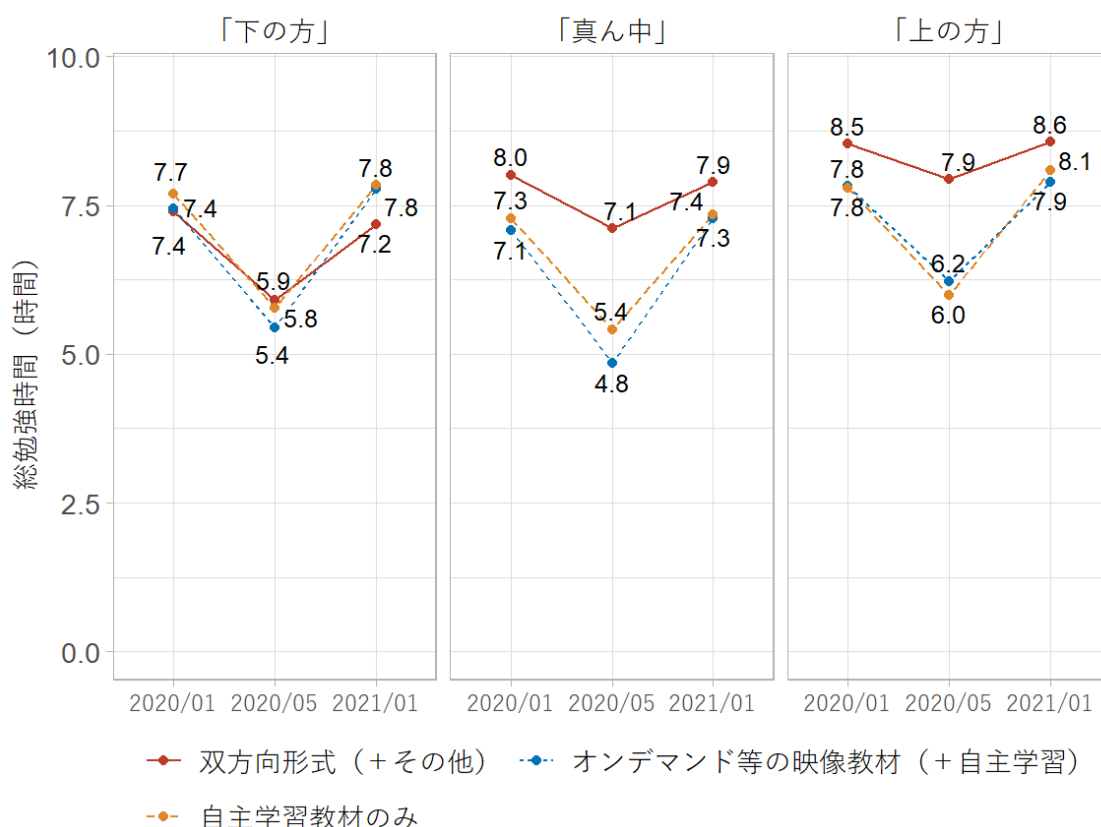
(学習手段・教材の提供割合)



(注) 異常値を除いたうえで、勉強時間を把握できるデータのみを集計。「いずれもなし」の割合はグラフから省略している。

図表 20 には 2020 年 5 月の学習手段・教材の提供状況別・2019 年度の成績別の勉強時間の推移を示した。2019 年の成績が真ん中以上と回答した世帯では、双方向形式のオンライン授業が提供されている場合に 2020 年 5 月の勉強時間の減少幅が小さく抑えられている。一方、2019 年度の成績が下の方だと回答した世帯では学校・自治体の学習手段・教材の提供状況による勉強時間の推移に大きな違いは見られない。

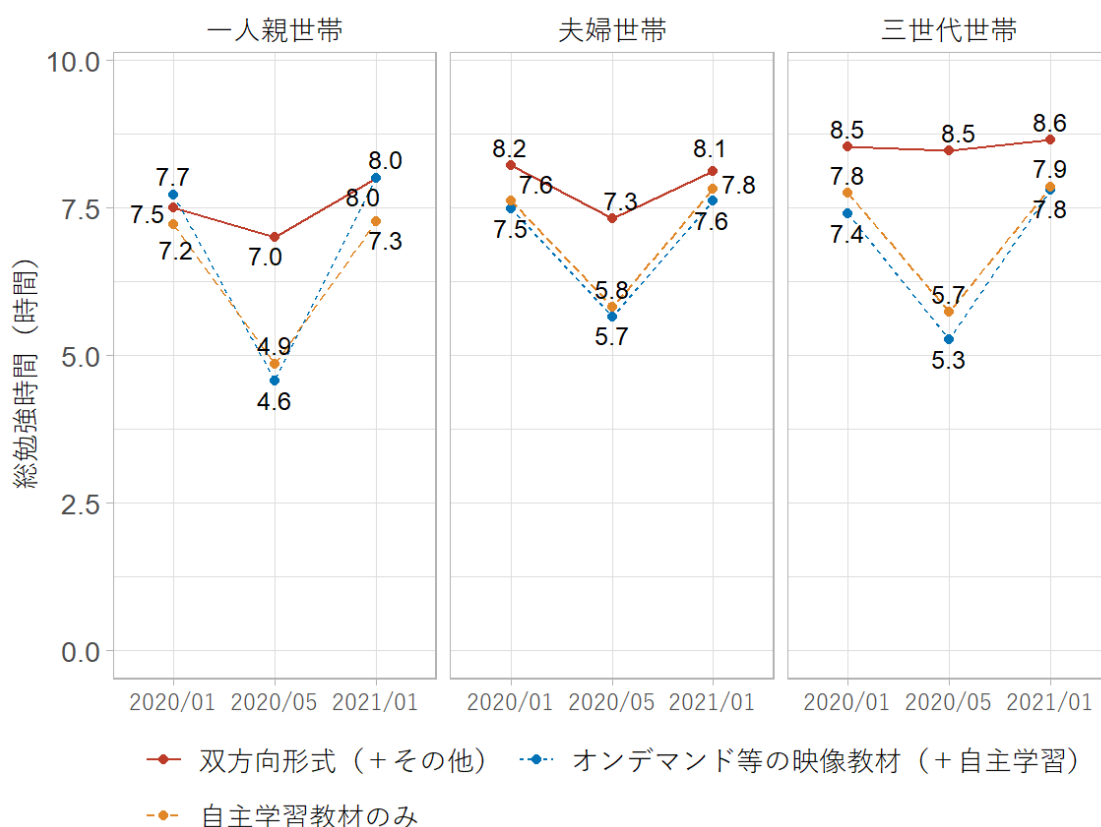
図表 20 学習手段・教材の提供状況別・2019 年度の成績別
勉強時間の推移



(注) 「下の方」のうち双方向形式 (+その他) は n=33、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=32、自主学習教材のみは n=86。
「真ん中」のうち双方向形式 (+その他) は n=71、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=82、自主学習教材のみは n=210。
「上の方」のうち双方向形式 (+その他) は n=126、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=105、自主学習教材のみは n=315。

図表 21 には 2020 年 5 月の学習手段・教材の提供状況別・世帯類型別の勉強時間の推移を示した。いずれの世帯類型でも、双方向形式のオンライン授業が提供されている場合に 2020 年 5 月の勉強時間の減少幅が小さく抑えられており、特に三世代世帯ではほとんど減少していない。また、いずれの世帯類型でもオンデマンド等の映像教材の提供と自主学習教材の提供では勉強時間の推移に大きな違いは見られない。

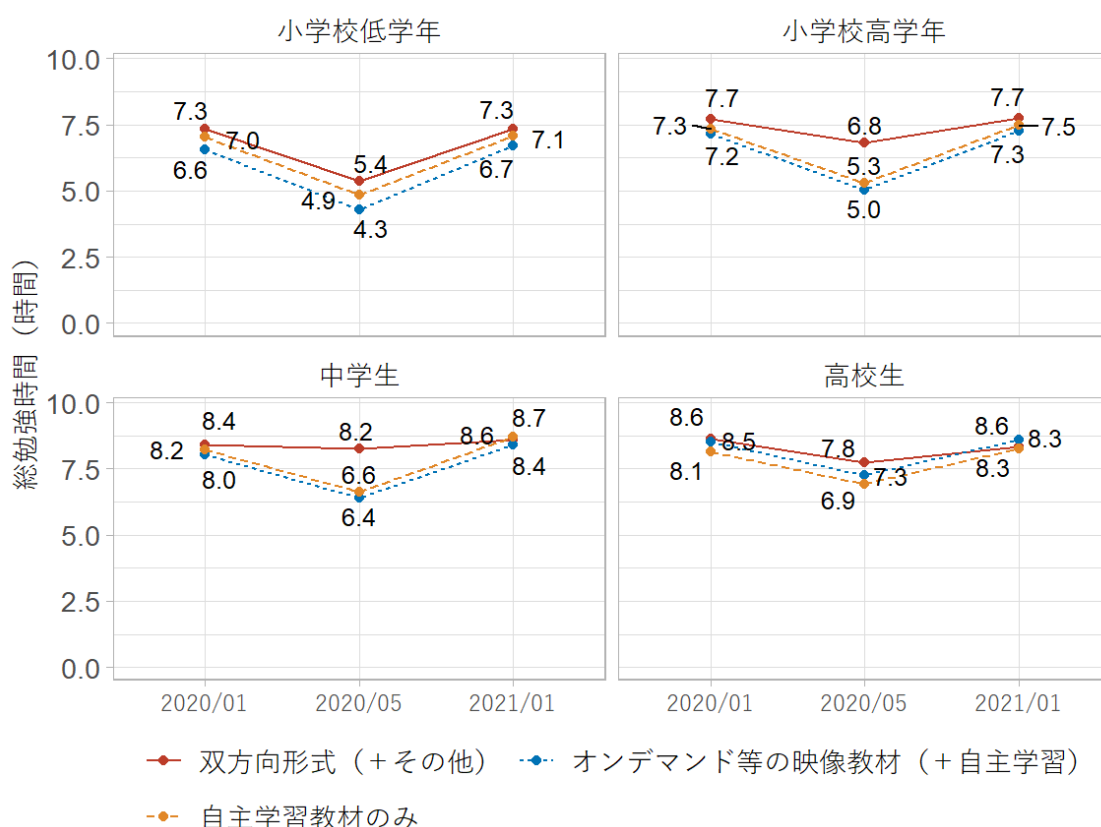
図表 21 学習手段・教材の提供状況別・世帯類型別 勉強時間の推移



(注) 「一人親世帯」のうち双方向形式 (+その他) は n=10、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=7、自主学習教材のみは n=36。
「夫婦世帯」のうち双方向形式 (+その他) は n=203、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=197、自主学習教材のみは n=518。
「三世代世帯」のうち双方向形式 (+その他) は n=17、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=15、自主学習教材のみは n=57。

図表 22 には 2020 年 5 月の学習手段・教材の提供状況別・学校段階別の勉強時間の推移を示した。小学校低学年以外の学校段階では、双方向形式のオンライン授業が提供されている場合に 2020 年 5 月の勉強時間の減少幅が小さい。特に中学生では 2020 年 5 月にほとんど勉強時間が減少していない。一方、小学校低学年では、双方向形式のオンライン授業が提供されている場合とオンデマンド等の映像教材や自主学習教材が提供されている場合で勉強時間の変化に大きな違いは見られない。

図表 22 学習手段・教材の提供状況別・学校段階別 勉強時間の推移



(注) 「小学校低学年」のうち双方向形式 (+その他) は n=30、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=52、自主学習教材のみは n=166。
「小学校高学年」のうち双方向形式 (+その他) は n=47、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=75、自主学習教材のみは n=199。
「中学生」のうち双方向形式 (+その他) は n=64、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=50、自主学習教材のみは n=145。
「高校生」のうち双方向形式 (+その他) は n=89、オンデマンド等の映像教材 (+自主学習) は n=42、自主学習教材のみは n=101。

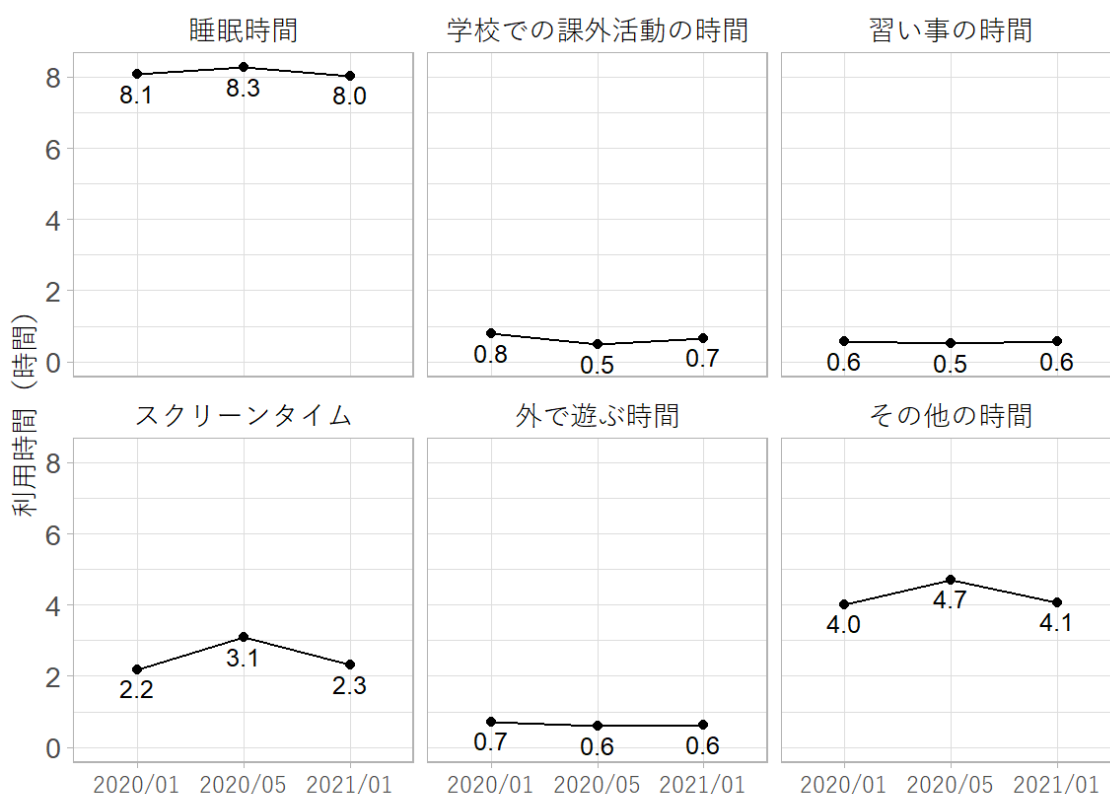
4. コロナ禍がもたらした生活時間への影響

(1) 生活時間の推移

以上では勉強時間の推移を確認してきたが、総勉強時間が減少するなかで、何に対する利用時間が増加したのか確認するため、図表 23 に勉強時間以外の生活時間の推移を示した。なお、図表 23 のスクリーンタイムとは、テレビやゲーム、インターネット、携帯電話を使用する時間を示す。

全国的に休校措置のとられた 2020 年 5 月には学校での課外活動の時間、習い事の時間、外で遊ぶ時間は減少しているが、スクリーンタイムは顕著に増加しており、睡眠時間もわずかに増加していることがわかる。

図表 23 生活時間（1日あたり）の推移

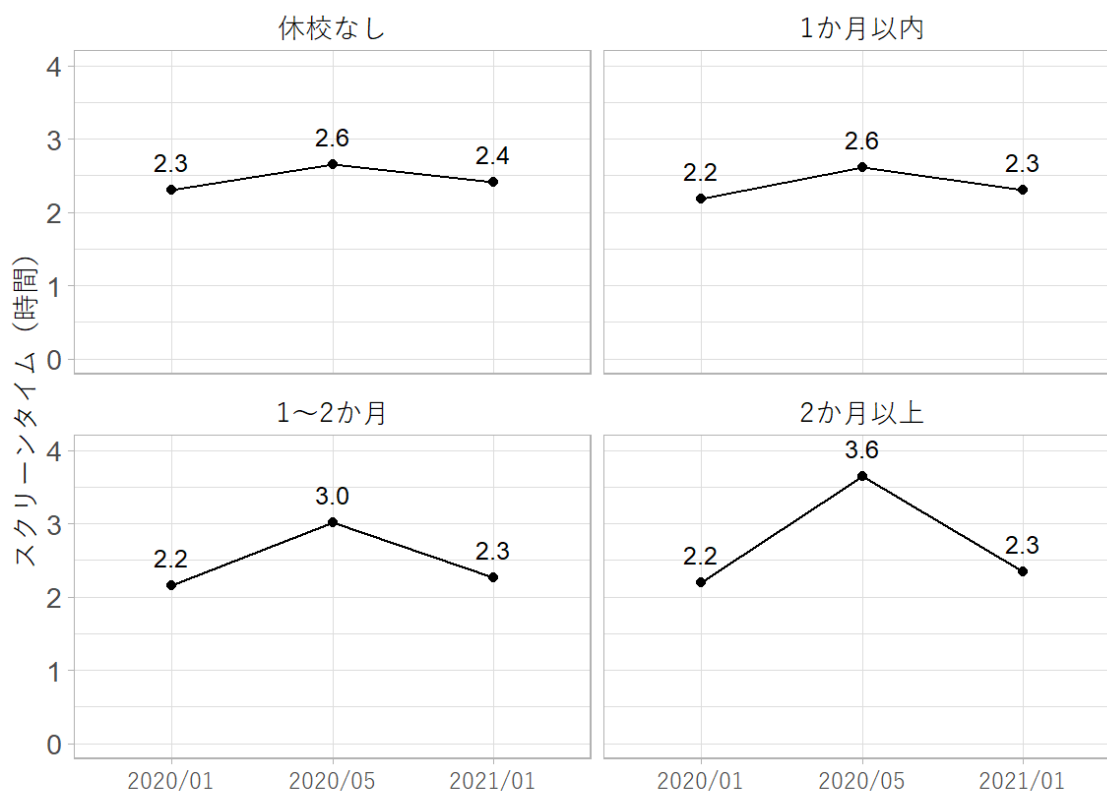


(注) スクリーンタイムとは、テレビやゲーム、インターネット、携帯電話を使用している時間を示す。n=3300。

(2) 臨時休校期間別のスクリーンタイム

以降ではスクリーンタイムの推移を層別に確認する。図表 24 には臨時休校期間別にスクリーンタイムの推移を示した。いずれも 2020 年 5 月にはスクリーンタイムが増加しており、休校期間が長期化するほど増加幅は大きくなっている。長期の臨時休校が子どもの生活時間に影響を及ぼしていることが示唆される。

図表 24 臨時休校期間別 スクリーンタイムの推移

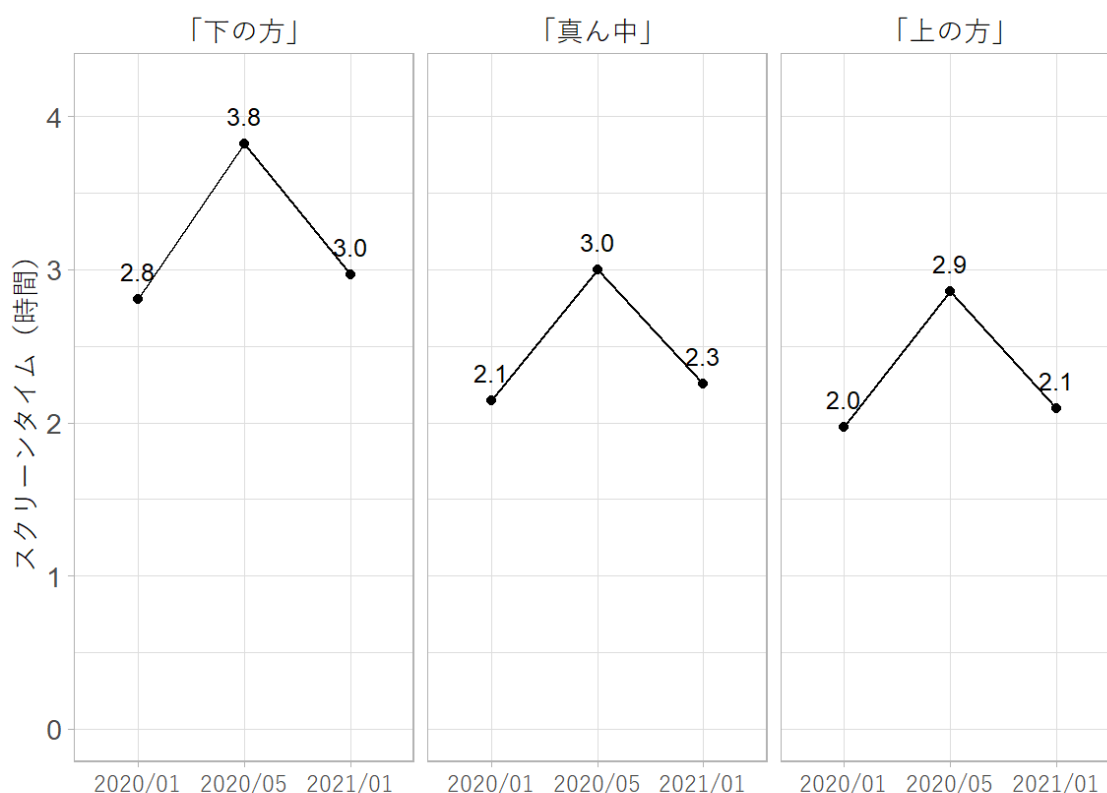


(注) 「休校なし」は n=268、「1か月以内」は n=855、「1~2か月以内」は n=1117、「2か月以上」は n=1060。

(3) 成績（2019年度）別のスクリーンタイム

図表 25 には 2019 年度の成績別にスクリーンタイムの推移を示した。いずれも 2020 年 5 月にスクリーンタイムは大きく増加しているが、2019 年度の成績が下の方だと回答した世帯では、もともとのスクリーンタイムが長く、2020 年 1 月から 5 月にかけての増加幅も大きい。また、2019 年度の成績が下の方だと回答した世帯では、2021 年 1 月のスクリーンタイムが高止まり傾向にある。

図表 25 2019 年度の成績別 スクリーンタイムの推移

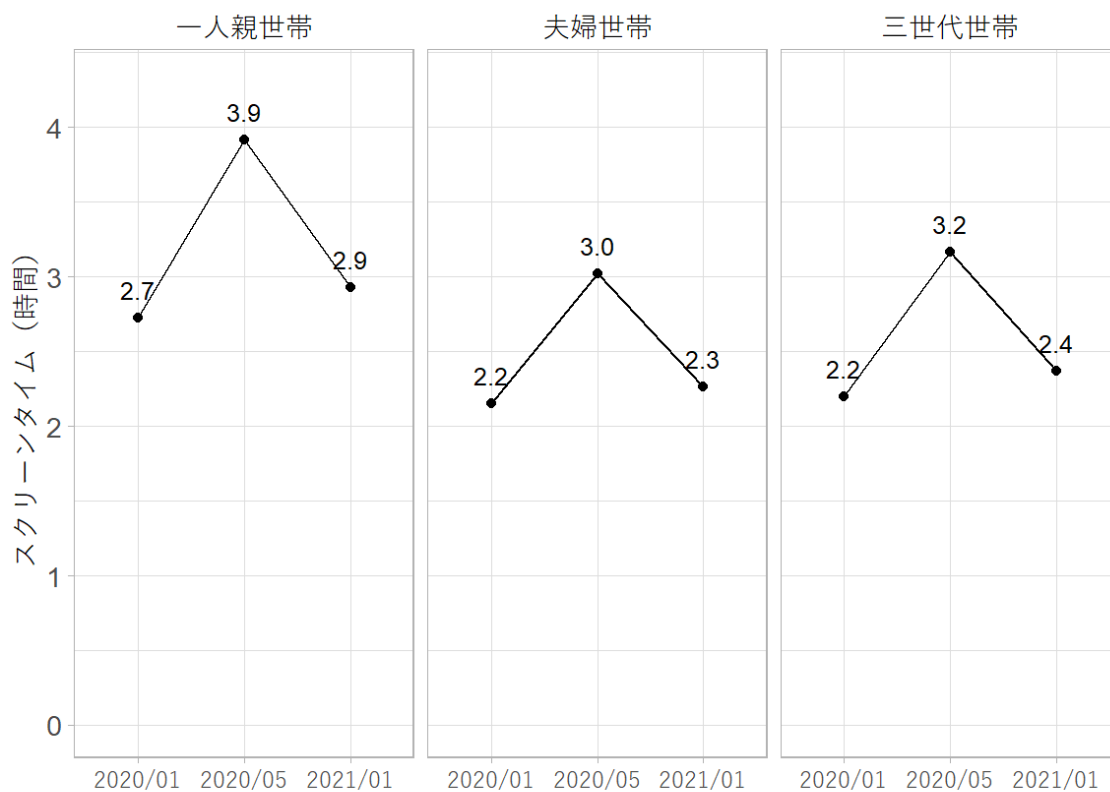


(注) 「下の方」は n=593、「真ん中」は n=1254、「上の方」は n=1453。

(4) 世帯類型別のスクリーンタイム

図表 26 には世帯類型別のスクリーンタイムの推移を示した。いずれの世帯類型においても 2020 年 5 月にスクリーンタイムは増加しているが、一人親世帯では夫婦世帯や三世帯世帯と比較して、もともとのスクリーンタイムが長く、2020 年 1 月から 5 月にかけての増加幅も大きい。さらに前年 1 月と比較した 2021 年 1 月のスクリーンタイムも一人親世帯で高い水準となっている。

図表 26 世帯類型別 スクリーンタイムの推移



(注) 「一人親世帯」は n=176、「夫婦世帯」は n=2807、「三世帯世帯」は n=317。

5. コロナ禍における時間利用と成績の関係

① 2020年1月の時間利用と2019年度の成績の関係

本節では、以上で概観した時間利用（どういった活動にどの程度時間を使っているか）が成績にどのような影響を及ぼしているかを分析する。まず、コロナ以前の時間利用と成績の関係を確認するため、図表 27 には 2019 年度の成績を 2020 年 1 月の時間利用に回帰した結果を示した。(1)および(2)は全体の成績、(3)および(4)は国語の成績、(5)および(6)は算数・数学の成績に関する分析結果である。(1), (3), (5)列は時間利用の変数のみを説明変数とした推定結果、(2), (4), (6)列は世帯年収や親の学歴、世帯類型、学年が子どもの成績と時間利用の両方に影響を与えている可能性を考慮し、それらの変数の影響をコントロールした推定結果を表す。

成績と最も強い正の関係が確認されるのは学校外の勉強時間であり、世帯属性等の影響をコントロールしたうえで学校外の勉強時間が 1 時間増加すると 7 段階評価の成績がいずれの科目も約 0.15 ポイント向上することが示された。一方で、学校での勉強時間は(5)列を除いて統計的に有意ではなく、成績の説明力は学校外の勉強時間のほうが高いことが明らかになった。対照的にスクリーンタイムは成績との負の関係が頑健に示されており、世帯属性等の影響をコントロールしたうえでスクリーンタイムが 1 時間増加すると各科目とも成績が約 0.12～0.13 ポイント低下することが明らかになった。

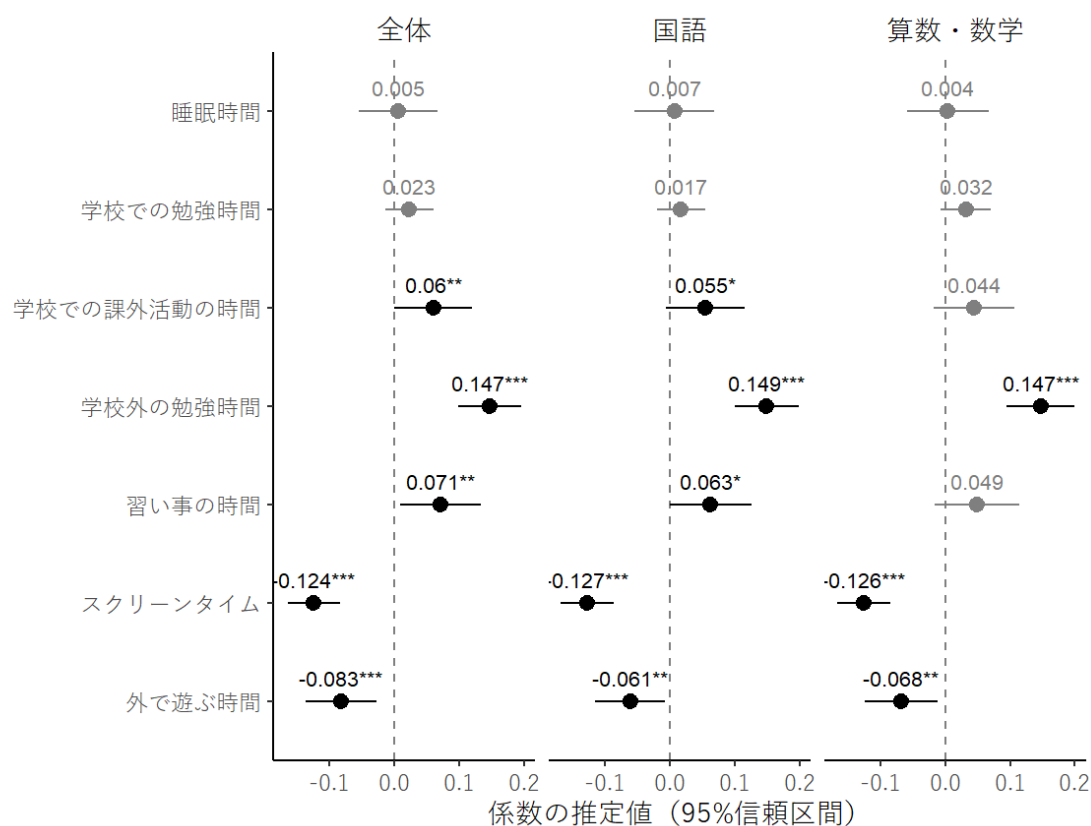
図表 28 には図表 27 の(2), (4), (6)列の時間利用の係数の推定値と 95%信頼区間を可視化した。学校での課外活動の時間や習い事の時間も成績に有意に正の影響を与えているが、効果量は半分以下であることが読み取れる。また、外で遊ぶ時間は成績に有意に負の影響を与えているが、効果量はスクリーンタイムのほうが 1.5～2 倍程度大きい。

図表 27 2020年1月の時間利用と2019年度の成績の関係

被説明変数：2019年度の成績	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
	全体		国語		算数・数学	
睡眠時間	0.019 (0.028)	0.005 (0.031)	0.027 (0.028)	0.007 (0.031)	0.040 (0.029)	0.004 (0.032)
学校での勉強時間	0.027 (0.019)	0.023 (0.019)	0.020 (0.019)	0.017 (0.019)	0.035* (0.020)	0.032 (0.020)
学校での課外活動の時間	0.026 (0.028)	0.060** (0.030)	0.020 (0.028)	0.055* (0.031)	0.001 (0.030)	0.044 (0.032)
学校外の勉強時間	0.165*** (0.024)	0.147*** (0.025)	0.166*** (0.025)	0.149*** (0.025)	0.165*** (0.026)	0.147*** (0.026)
習い事の時間	0.103*** (0.031)	0.071** (0.032)	0.095*** (0.032)	0.063* (0.032)	0.093*** (0.033)	0.049 (0.034)
スクリーンタイム	-0.146*** (0.021)	-0.124*** (0.021)	-0.146*** (0.021)	-0.127*** (0.021)	-0.154*** (0.021)	-0.126*** (0.021)
外で遊ぶ時間	-0.065** (0.028)	-0.083*** (0.028)	-0.044 (0.027)	-0.061** (0.027)	-0.042 (0.029)	-0.068** (0.029)
ln(世帯年収)		0.245*** (0.048)		0.210*** (0.051)		0.276*** (0.053)
少なくとも片親が4年制大学卒以上		0.236*** (0.061)		0.199*** (0.063)		0.295*** (0.065)
世帯類型	No	Yes	No	Yes	No	Yes
学年	No	Yes	No	Yes	No	Yes
観測数	2758	2758	2758	2758	2758	2758
自由度修正済み決定係数	0.059	0.085	0.055	0.074	0.054	0.085

(注) カッコ内は頑健標準誤差。*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1。

図表 28 2020年1月の時間利用と2019年度の成績の関係 推定値と95%信頼区間



(注) *** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1。

② 2020年5月の時間利用と2020年度の成績の関係

休校期間中の時間利用による2020年度の成績への影響を確認するため、図表29には2020年度の成績を2020年5月の時間利用に回帰した結果を示した。(1), (3), (5)列は時間利用の変数のみを説明変数とした推定結果、(2), (4), (6)列は世帯年収や親の学歴、世帯類型、学年が子どもの成績と時間利用の両方に影響を与えている可能性を考慮し、それらの変数の影響をコントロールした推定結果を表す。図表27と同様に、学校外の勉強時間が成績に有意に正の影響を、スクリーンタイムが負の影響を与えていることが頑健に示された。一方で、効果量は小さいものの学校での勉強時間は図表27とは対照的に有意に負となっている。2020年5月は全国的に休校措置がとられており、この負の関係は何らかの学校の対応による違いを捉えている可能性が考えられる。

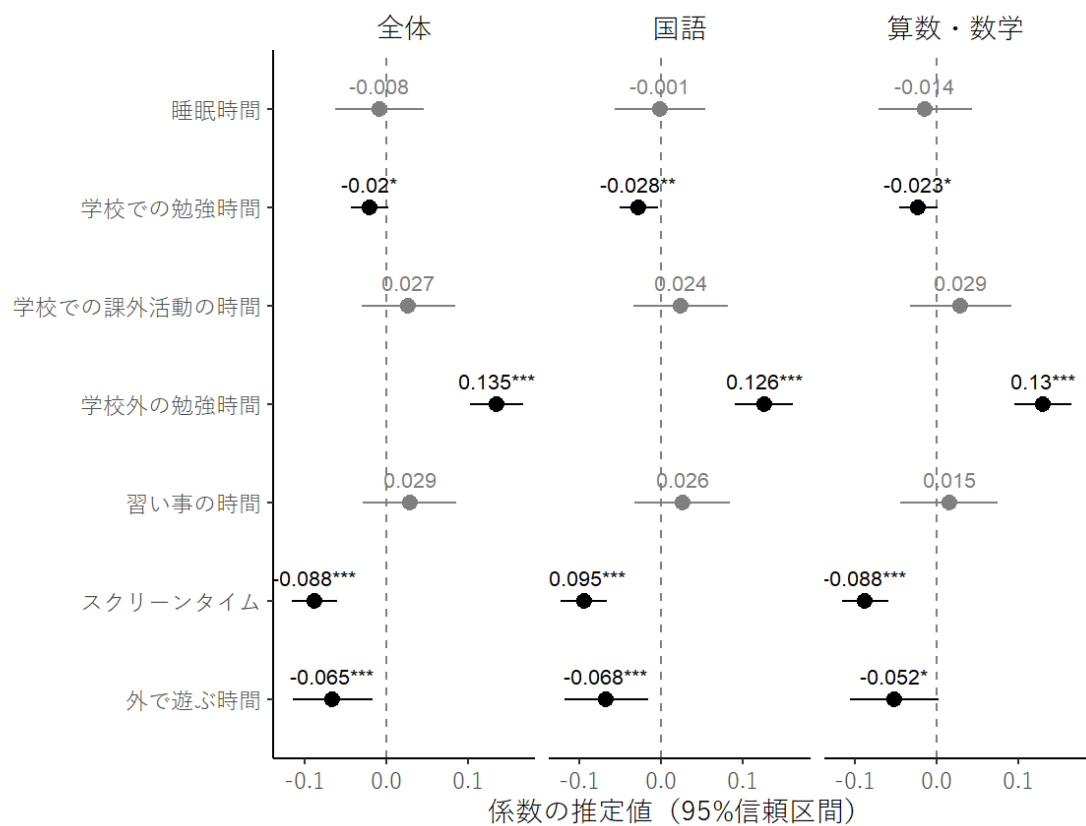
図表30には図表29の(2), (4), (6)列の時間利用の係数の推定値と95%信頼区間を可視化した。図表28と比較して、全体的に効果量の絶対値は0に近づいているが、依然として、学校外の勉強時間とスクリーンタイムが成績に与える影響が強く、前述の勉強時間およびスクリーンタイムの推移を踏まえると、臨時休校によりさらに学力格差が拡大した可能性が示唆される。

図表 29 2020年5月の時間利用と2020年度の成績の関係

被説明変数：2020年度の成績	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
	全体		国語		算数・数学	
睡眠時間	-0.001 (0.026)	-0.008 (0.028)	0.009 (0.026)	-0.001 (0.028)	0.013 (0.027)	-0.014 (0.029)
学校での勉強時間	-0.020* (0.012)	-0.020* (0.012)	-0.029** (0.012)	-0.028** (0.012)	-0.025** (0.012)	-0.023* (0.012)
学校での課外活動の時間	0.002 (0.028)	0.027 (0.029)	0.000 (0.029)	0.024 (0.029)	-0.002 (0.030)	0.029 (0.032)
学校外の勉強時間	0.147*** (0.016)	0.135*** (0.017)	0.136*** (0.018)	0.126*** (0.018)	0.138*** (0.017)	0.130*** (0.018)
習い事の時間	0.052* (0.029)	0.029 (0.029)	0.048 (0.030)	0.026 (0.030)	0.049 (0.030)	0.015 (0.030)
スクリーンタイム	-0.102*** (0.014)	-0.088*** (0.014)	-0.107*** (0.014)	-0.095*** (0.014)	-0.107*** (0.015)	-0.088*** (0.015)
外で遊ぶ時間	-0.063** (0.025)	-0.065*** (0.025)	-0.065** (0.026)	-0.068*** (0.026)	-0.045* (0.028)	-0.052* (0.028)
ln(世帯年収)		0.246*** (0.048)		0.224*** (0.052)		0.295*** (0.054)
少なくとも片親が4年制大学卒以上		0.265*** (0.062)		0.228*** (0.064)		0.305*** (0.066)
世帯類型	No	Yes	No	Yes	No	Yes
学年	No	Yes	No	Yes	No	Yes
観測数	2758	2758	2758	2758	2758	2758
自由度修正済み決定係数	0.067	0.095	0.061	0.083	0.058	0.092

(注) カッコ内は頑健標準誤差。*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1。

図表 30 2020年5月の時間利用と2020年度の成績の関係 推定値と95%信頼区間



(注) *** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1。

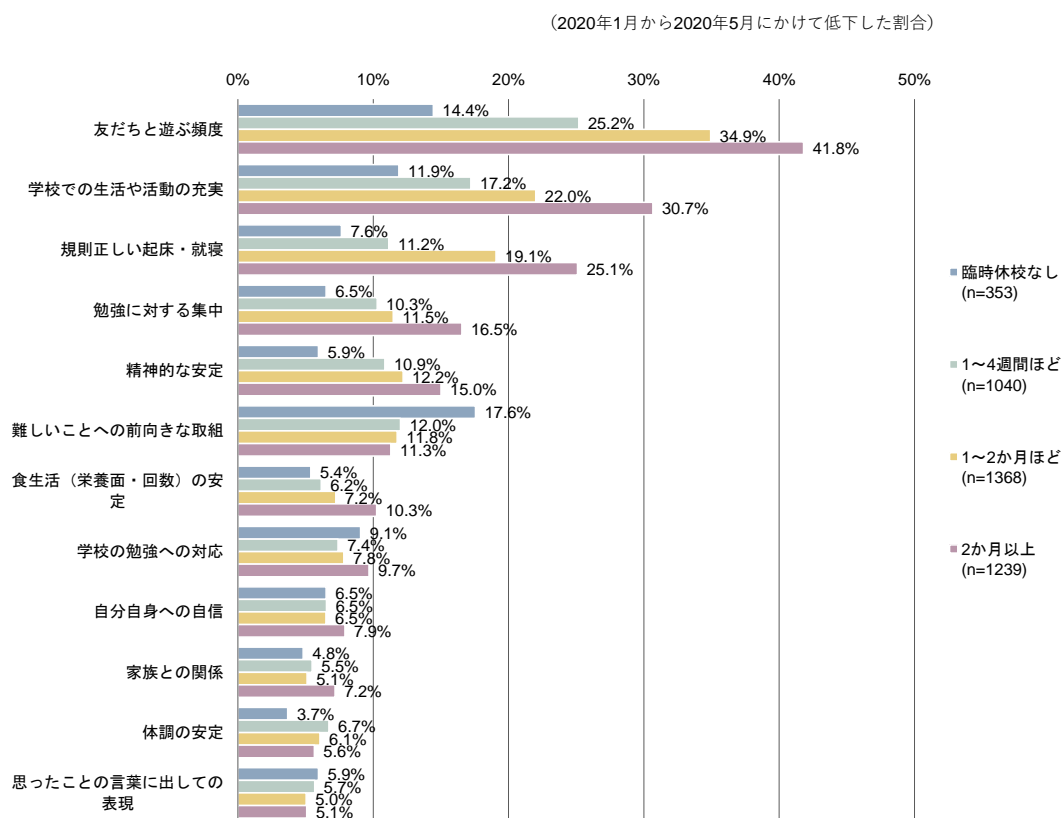
6. 非認知能力・生活習慣等の変化と学校行事との関係

本節では、2020年の臨時休校や、新型コロナに伴う学校行事の中止・縮小が、子どもの非認知能力や生活習慣等にどのような影響を及ぼしたのかを分析する。

(1) 臨時休校期間と非認知能力・生活習慣等の変化

はじめに、休校期間の長さが非認知能力・生活習慣等に影響を及ぼしているかを確認する。臨時休校期間別に2020年1月から5月にかけての非認知能力・生活習慣等の低下割合をみると、休校期間が2か月以上と長い場合、「友達と遊ぶ頻度」が低下した子どもは40%程度、「学校での生活や活動の充実」が低下した子どもは30%程度となっている。「規則正しい起床・就寝」、「勉強に対する集中」、「精神的な安定」についても、臨時休校が長期に及んだ場合に顕著に低下している。

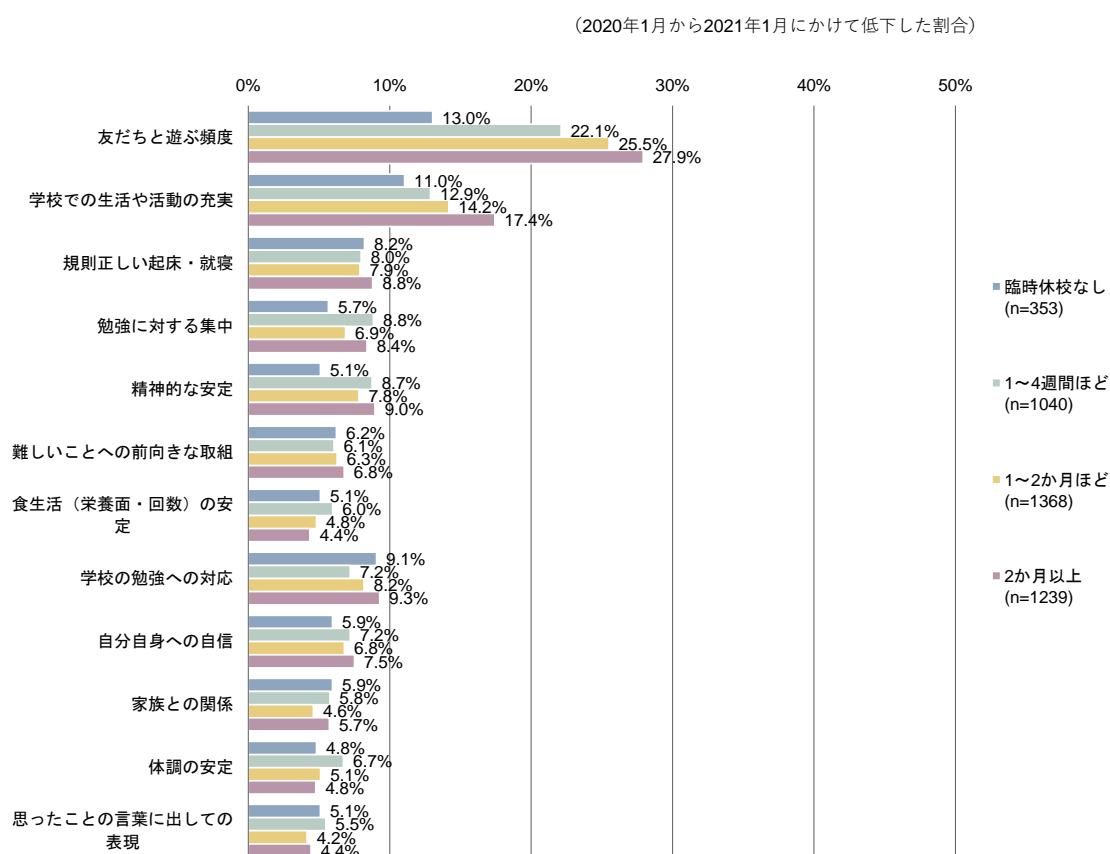
図表 31 臨時休校期間別 非認知能力・生活習慣等の低下割合
(2020年1月から2020年5月にかけての変化)



(注)「友達と遊ぶ頻度が多かった」や「学校での生活や活動が充実していた」といった設問に対して、「よくあてはまる」、「どちらかというあてはまる」、「どちらかというあてはまらない」、「まったくあてはまらない」、「わからない」のうちから回答。2020年1月から2020年5月にかけて、各質問への回答について、よりあてはまらなくなったという場合を低下としてその割合を計算している。

より長期の2020年1月から2021年1月にかけてみると、非認知能力・生活習慣等に係る多くの項目で低下傾向は解消されている。その中で、「友達と遊ぶ頻度が多かった」については「低下」が休校期間にかかわらず20～30%残っている。また、「学校での生活や活動が充実していた」について、休校期間が長くなるに従って「低下」の割合が高くなっている。

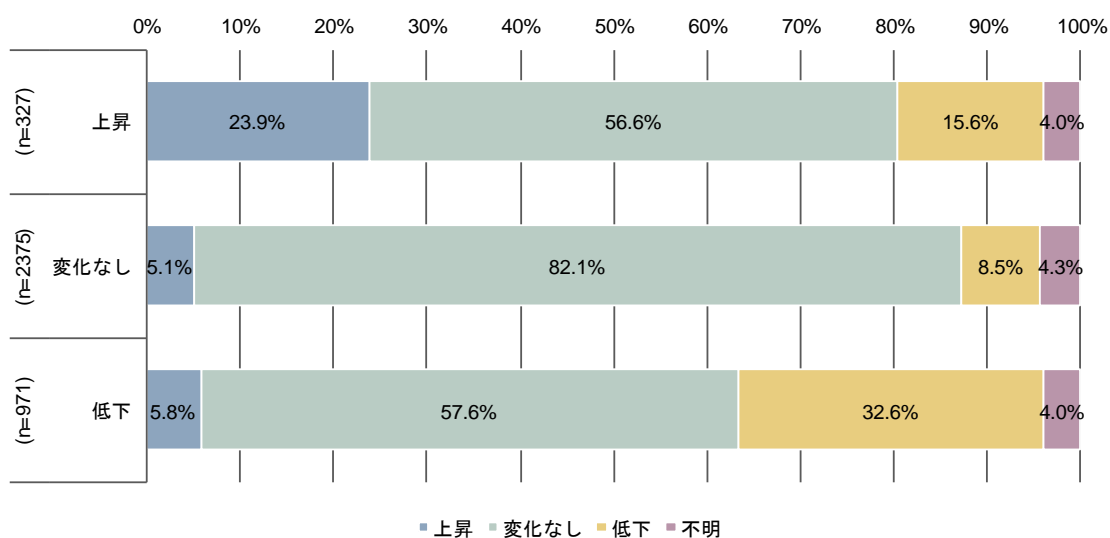
図表 32 臨時休校期間別 非認知能力・生活習慣等の低下割合
(2020年1月から2021年1月にかけての変化)



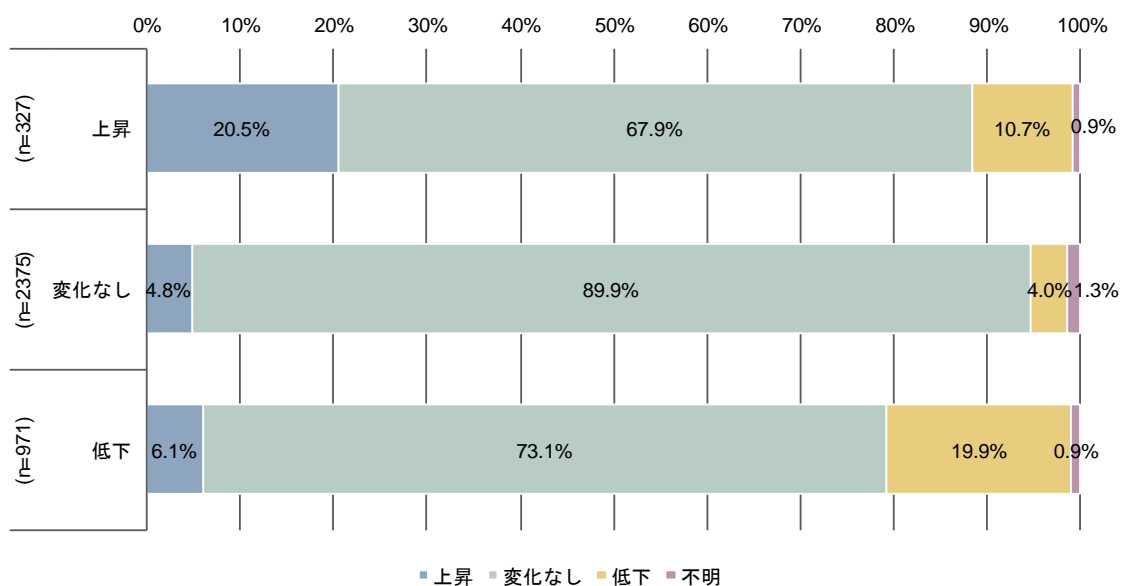
(注) 「友だちと遊ぶ頻度が多かった」や「学校での生活や活動が充実していた」といった設問に対して、「よくあてはまる」、「どちらかというあてはまる」、「どちらかというあてはまらない」、「まったくあてはまらない」、「わからない」のうちから回答。2020年1月から2021年1月にかけて、各質問への回答について、よりあてはまらなくなったという場合を低下としてその割合を計算している。

ここで、参考として、2020年1月から2021年1月にかけての「友達と遊ぶ頻度」の変化と、「学校での生活や活動の充実度合い」の変化、「精神的な安定度合い」の変化との関係をみると「友達と遊ぶ頻度」が低下している場合、「学校での生活や活動の充実度合い」が低下している割合や「精神的な安定度合い」が低下している割合が高くなっている。

図表 33 縦軸：友達と遊ぶ頻度の変化（2020年1月頃⇒2021年1月頃）、
横軸：学校での生活や活動の充実度合いの変化（2020年1月頃⇒2021年1月頃）



図表 34 縦軸：友達と遊ぶ頻度の変化（2020年1月頃⇒2021年1月頃）、
横軸：精神的な安定度合いの変化（2020年1月頃⇒2021年1月頃）

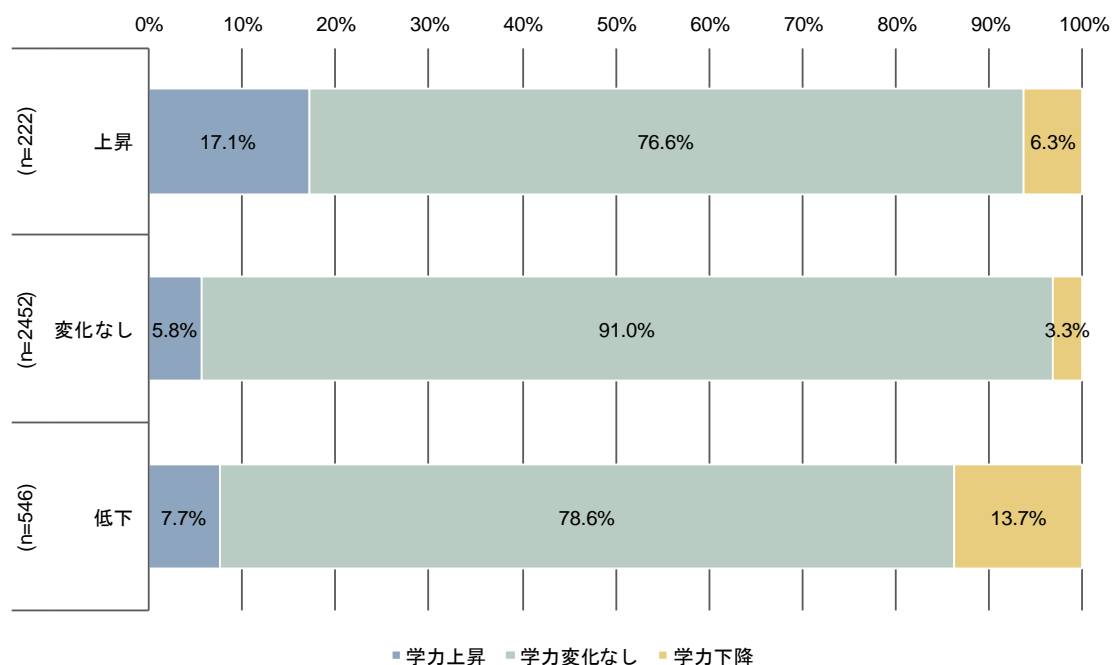


(2) 学校での生活や活動の充実度合いの変化と学力の変化

ここでは、非認知能力・生活習慣等の中で、「学校での生活や活動の充実度合い」を取り上げ、その変化と学校での成績の変化との関係を見た。

2019年度から2020年度の学校での成績（全教科）については、全体には「学力変化なし」の割合が非常に高い割合を占めている。その中で、2020年1月頃から2021年1月頃にかけて、「学校での生活や活動の充実度合い」が「上昇」している場合には、学力「上昇」の割合が高くなり、反対に、「学校での生活や活動の充実度合い」が「低下」している場合には、学力「下降」の割合が高くなっている。

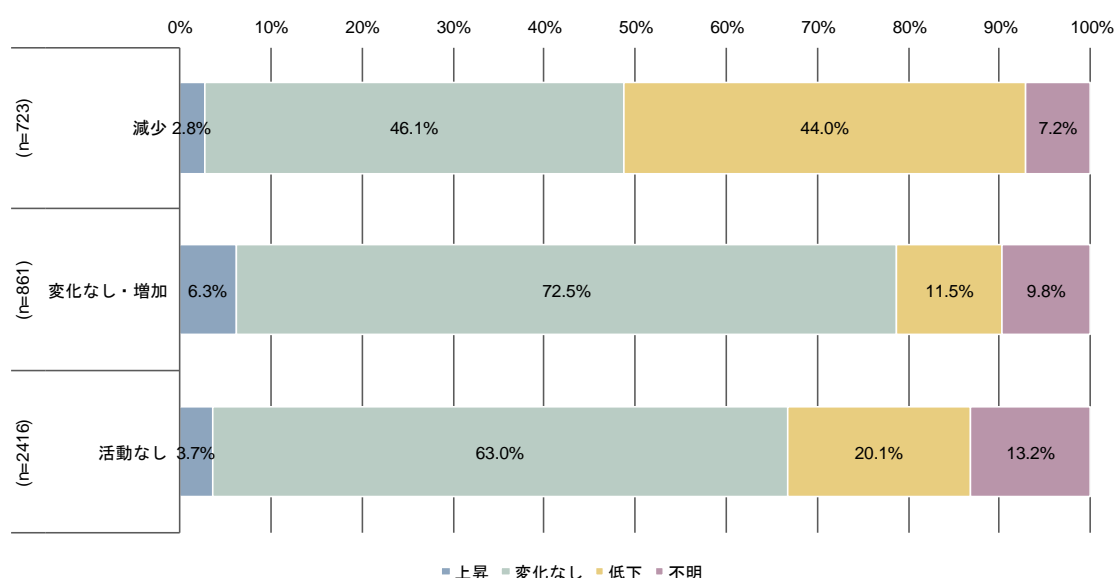
図表 35 縦軸：学校での生活や活動の充実度合いの変化（2020年1月頃⇒2021年1月頃）、横軸：学校での成績の変化（2019年度⇒2020年度：全科目）



(3) 課外活動の時間の変化と学校での生活や活動の充実度合いの変化

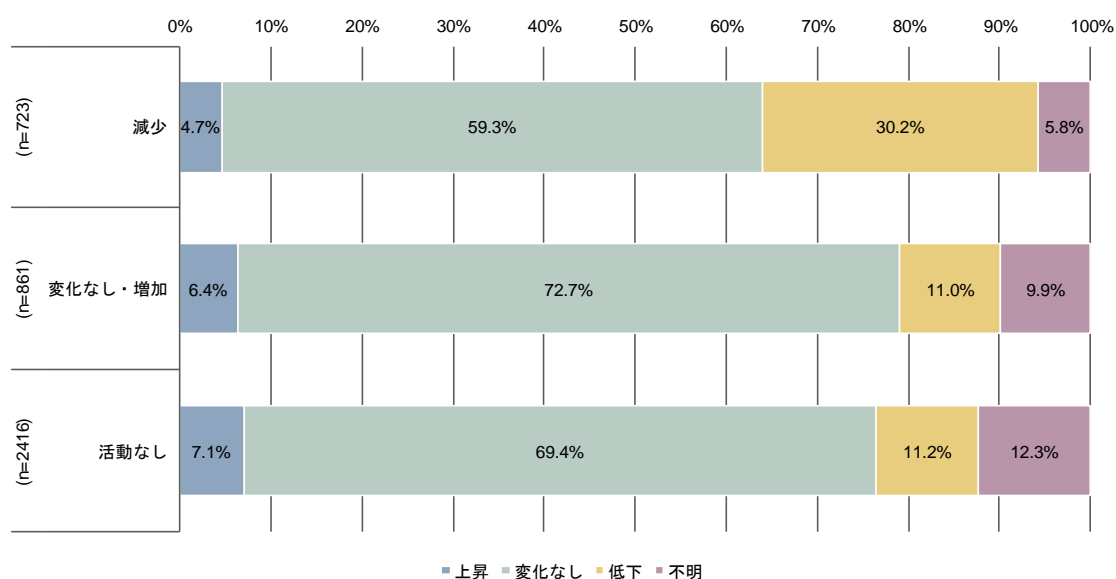
ここでは、コロナ禍によるクラブ活動など課外活動の時間の変化が、子どもの学校での生活や活動の充実度合いに影響を及ぼしているかを確認する。具体的には、学校での課外活動（部活等）の時間について、2020年1月頃から5月頃の変化と、「学校での生活や活動の充実度合い」の変化の関係をみた。結果は、学校での課外活動の時間が「減少」している場合、「学校での生活や活動の充実度合い」が「低下」している割合が44.0%と非常に高く、この期間の課外活動の減少が、学校での生活や活動の充実度合いの低下をもたらしている可能性が高いことがわかる。

図表 36 縦軸：学校での課外活動の時間変化（2020年1月頃⇒5月頃）、
横軸：学校での生活や活動の充実度合いの変化（2020年1月頃⇒5月頃）



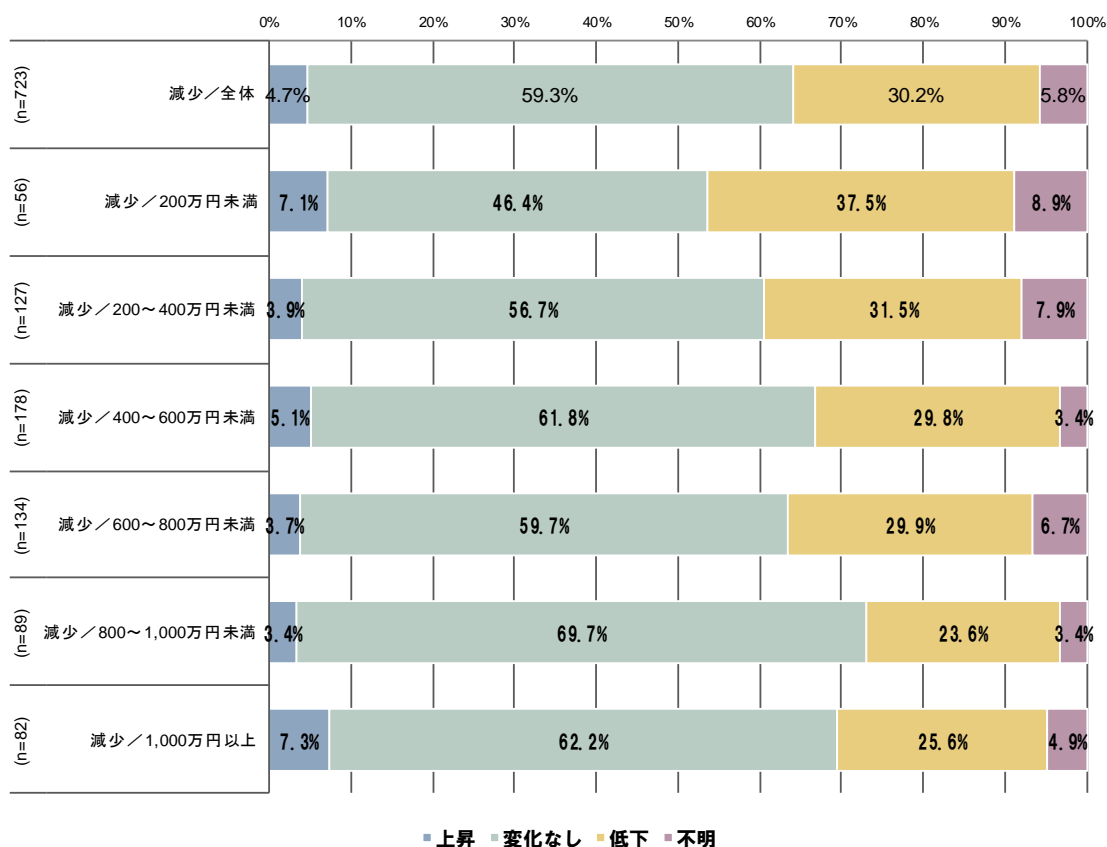
より長い期間の2020年1月頃から2021年1月頃までの変化をみても、学校での課外活動の時間が「減少」している場合、「学校での生活や活動の充実度合い」が「低下」している割合が30.2%と依然として高く、1年後でも低下の影響が残っているケースが多いことがわかる。

図表 37 縦軸：学校での課外活動の時間変化（2020年1月頃⇒2021年1月頃）、
横軸：学校での生活や活動の充実度合いの変化（2020年1月頃⇒2021年1月頃）

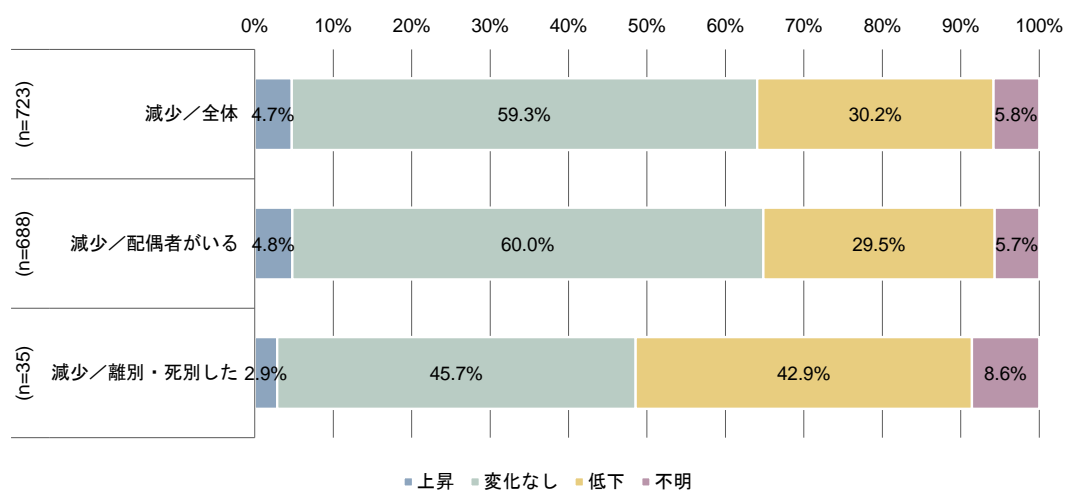


ここで、学校での課外活動の時間が「減少」している場合について、「学校での生活や活動の充実度合い」の変化を、世帯の可処分所得階層別、及び、婚姻関係別にみた。結果は、総じて可処分所得階層が低い場合に、また、離別・死別（一人親）の場合に「学校での生活や活動の充実度合い」が「低下」している割合が高くなっている。課外活動の時間の減少によって、低所得世帯、一人親世帯の子どもにおいて、「学校での生活や活動の充実度合い」が低下していることがうかがえる。

図表 38 〔学校での課外活動の時間変化（2020年1月頃⇒5月頃）が「減少」の場合〕
 縦軸：世帯可処分所得（2020年）、横軸：学校での生活や活動の充実度合いの変化（2020年1月頃⇒2021年1月頃）



図表 39 〔学校での課外活動の時間変化（2020年1月頃⇒5月頃）が「減少」の場合〕
 縦軸：婚姻関係、横軸：学校での生活や活動の充実度合いの変化（2020年1月頃⇒2021年1月頃）



(4) 学校行事の中止・縮小と非認知能力・生活習慣等への影響分析

新型コロナによって、多くの学校行事が中止・縮小を余儀なくされた。そこで本小節では、上述の非認知能力・生活習慣等に対して、学校行事の中止・縮小がどのような影響を与えたのかを分析する。

① 学校行事の実施状況（学校段階別）

2020 年における学校行事の実施状況を学校段階別に整理したものが図表 40 である。小学生の場合、学芸会・文化祭や、作品展、音楽会・合唱コンクール、スキー教室、海外研修はそもそも実施していない割合が高いため、分析対象から除外する。中学生の場合は、作品展、スキー教室、海外研修は当初から予定されていなかった割合が高いため、分析対象から除外する。高校生については、作品展、音楽会・合唱コンクール、遠足、スキー教室、海外研修は当初から予定されていなかった割合が高いため分析対象から除外する。

図表 40 学校行事の実施状況の割合 (%) (学校段階別)

		規模縮小			当初から	
		予定通り 実施	や時期変 更はあっ たが実施	中止に なった	予定され ていな かった	分からな い
運動会・ 体育祭・ 球技大会	小学校	5.1	59.1	33.2	0.7	1.9
	中学校	6.8	49.9	37.2	0.4	5.8
	高校	6.0	30.9	50.8	4.3	8.1
学芸会・ 文化祭	小学校	2.1	19.8	46.8	23.9	7.4
	中学校	4.1	32.5	45.7	8.3	9.4
	高校	4.1	31.3	51.9	4.2	8.6
作品展	小学校	3.5	19.6	40.0	25.1	11.8
	中学校	3.2	18.5	34.0	26.0	18.3
	高校	2.3	10.3	36.2	32.4	18.9
音楽会・ 合唱 コンクール	小学校	1.7	14.6	48.2	24.5	10.9
	中学校	3.4	29.5	47.7	7.0	12.4
	高校	1.6	7.2	46.4	27.3	17.6
遠足	小学校	7.7	32.0	48.5	5.4	6.3
	中学校	3.8	16.1	49.5	17.8	12.7
	高校	3.9	8.8	49.2	24.7	13.4
修学旅行・ 移動教室	小学校	6.4	31.5	33.1	17.2	11.8
	中学校	5.0	26.6	47.4	10.2	10.8
	高校	5.5	16.6	50.9	13.9	13.2
スキー教室	小学校	2.5	4.7	18.7	63.5	10.7
	中学校	2.0	2.1	24.8	60.4	10.8
	高校	1.6	2.4	24.9	56.3	14.9
海外研修	小学校	0.7	1.8	14.2	72.7	10.7
	中学校	0.7	1.1	16.6	71.1	10.5
	高校	0.6	1.2	32.6	51.5	14.2

② 非認知能力・生活習慣等の分類

アンケート調査では、図表 41 の右列に示されている 12 項目の非認知能力・生活習慣等を調査した。以降の分析では、これらの非認知能力・生活習慣等を類似性に基づいて集約したうえで分析を行う。集約した 5 つの非認知能力・生活習慣等は図表 41 の左列に示したとおりである。集約は、各項目の内容と因子分析の結果を踏まえて分類した。各項目は、2020 年 1 月頃、2020 年 5 月頃、2021 年 1 月頃の 3 時点について、「よくあてはまる」「どちらか」というとあてはまる」「どちらかというとあてはまらない」「まったくあてはまらない」「わからない」の 5 つの選択肢で調査している。「よくあてはまる」を 3、「どちらかという」とあ

てはまる」を2、「どちらかというとはまらない」を1、「まったくあてはまらない」を0として定量化したうえで、各項目の平均値をとることによって、5つの指標を計算した。なお「わからない」が含まれる場合は欠損値として扱った。

図表 41 非認知能力・生活習慣等の分類

分類	項目
非認知能力	自分自身に自信を持っていた 思ったことを言葉に出して表現できていた 難しいことでも前向きに取り組んでいた 勉強に対して集中できていた
学校生活	学校の勉強についていけていた 学校での生活や活動が充実していた
生活習慣	食生活（栄養面・回数）が安定していた 規則正しく起床・就寝できていた
友達と遊ぶ頻度	友達と遊ぶ頻度が多かった
心身の健康	家族との関係が良かった 体調が安定していた 精神的に安定していた

③ 学校行事の中止・縮小が非認知能力・生活習慣等に与えた影響

2021年1月頃の各非認知能力・生活習慣等をアウトカムとして、2020年度における学校行事の中止・縮小状況を説明変数とした推定結果が図表 42～図表 44 である。各分析には、学校行事の中止・縮小状況以外に、2020年度の休校日数、新型コロナ拡大前（2020年1月頃）の各非認知能力・生活習慣等、2019年度の成績を説明変数として加味している。

小学生についてみると、運動会・体育祭・球技大会が中止・縮小になった場合、非認知能力や友達と遊ぶ頻度、心身の健康にマイナスの影響を与えていることがわかる。また、修学旅行・移動教室が中止・縮小になった場合は、学校生活、生活習慣、心身の健康に悪影響を与えている。一方で、遠足の中止・縮小は非認知能力・生活習慣等に対して統計的に有意な影響は与えていない。

中学生についてみると、学芸会・文化祭や遠足が中止・縮小になった場合、非認知能力に悪影響が生じる。一方で、音楽会・合唱コンクールが中止になった場合は、むしろ非認知能力にプラスの影響がある。また、休校日数が長くなると、非認知能力や学校生活にマイナスの影響が生じることがわかる。

高校生についてみると、学芸会・文化祭が中止・縮小になった場合、生活習慣や友達と遊ぶ頻度に悪影響が生じる。また修学旅行・移動教室が中止・縮小になると、非認知能力に悪影響が生じる。一方で、運動会・体育祭・球技大会が中止・縮小になると、生活習慣にプラ

スの影響が生じている。

以上をまとめると、全体として学校行事が中止・縮小になる影響は、特に小学生の非認知能力・生活習慣等に悪影響を与える傾向が強いことがわかる。学校行事別にみると、修学旅行・移動教室の中止は全体的に悪影響を与える傾向が強い。

図表 42 学校行事の中止・縮小が非認知能力・生活習慣等を与える影響：小学生

	(1) 非認知能力	(2) 学校生活	(3) 生活習慣	(4) 友達と遊ぶ 頻度	(5) 心身の健康
運動会・体育祭・球技大会	-0.106*** (0.0388)	-0.00556 (0.0515)	-0.0523 (0.0432)	-0.160** (0.0775)	-0.0669* (0.0390)
遠足	0.0141 (0.0219)	-0.0418 (0.0268)	-0.0121 (0.0234)	0.0283 (0.0513)	-0.0303 (0.0212)
修学旅行・移動教室	0.0100 (0.0163)	-0.0675*** (0.0210)	-0.0327* (0.0186)	-0.0574 (0.0430)	-0.0316* (0.0162)
休校日数	-0.000193 (0.000244)	-0.000191 (0.000331)	-0.000200 (0.000277)	-0.000847 (0.000573)	-4.97e-05 (0.000252)
サンプルサイズ	1,422	1,421	1,426	1,424	1,425
決定係数	0.755	0.679	0.781	0.326	0.803

(注) カッコ内は頑健標準誤差。*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1。表に示している以外に、各非認知能力・生活習慣等の2020年1月時点の数値と、2019年度の学校での成績を説明変数として加味している。

図表 43 学校行事の中止・縮小が非認知能力・生活習慣等を与える影響：中学生

	(1) 非認知能力	(2) 学校生活	(3) 生活習慣	(4) 友達と遊ぶ 頻度	(5) 心身の健康
運動会・体育祭・球技大会	-0.0426 (0.0457)	-0.0810 (0.0590)	-0.0560 (0.0379)	-0.0642 (0.0953)	-0.0673 (0.0413)
学芸会・文化祭	-0.0656* (0.0378)	0.0350 (0.0519)	0.0177 (0.0344)	-0.0185 (0.0793)	-0.0304 (0.0383)
音楽会・合唱コンクール	0.0698* (0.0378)	0.00436 (0.0449)	0.0122 (0.0323)	0.0196 (0.0690)	0.0328 (0.0310)
遠足	-0.0565* (0.0309)	0.00476 (0.0359)	0.00675 (0.0263)	0.0512 (0.0599)	-0.0168 (0.0265)
修学旅行・移動教室	0.0574 (0.0359)	-0.00436 (0.0414)	0.0185 (0.0316)	-0.0444 (0.0622)	0.0179 (0.0357)
休校日数	-0.00104*** (0.000392)	-0.000840* (0.000481)	-0.000467 (0.000354)	-0.00103 (0.000747)	-0.000319 (0.000338)
サンプルサイズ	760	760	764	763	764
決定係数	0.718	0.652	0.768	0.261	0.742

(注) カッコ内は頑健標準誤差。*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1。表に示している以外に、各非認知能力・生活習慣等の2020年1月時点の数値と、2019年度の学校での成績を説明変数として加味している。

図表 44 学校行事の中止・縮小が非認知能力・生活習慣等に与える影響：高校生

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	非認知能力	学校生活	生活習慣	友達と遊ぶ 頻度	心身の健康
運動会・体育祭・球技大会	0.0463 (0.0485)	0.0827 (0.0626)	0.106* (0.0562)	0.127 (0.103)	0.0256 (0.0278)
学芸会・文化祭	0.0207 (0.0472)	-0.0809 (0.0599)	-0.122* (0.0644)	-0.185* (0.107)	-0.00211 (0.0329)
修学旅行・移動教室	-0.102*** (0.0299)	-0.0137 (0.0387)	0.00421 (0.0328)	-0.00307 (0.0584)	-0.0236 (0.0266)
休校日数	0.000188 (0.000303)	-0.000106 (0.000336)	7.66e-05 (0.000333)	-0.000814 (0.000505)	-0.000266 (0.000264)
サンプルサイズ	685	689	688	687	688
決定係数	0.663	0.581	0.735	0.266	0.779

(注) カッコ内は頑健標準誤差。*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1。表に示している以外に、各非認知能力・生活習慣等の2020年1月時点の数値と、2019年度の学校での成績を説明変数として加味している。

(5) 非認知能力・生活習慣等の変化が学校の成績に与える影響

こうした非認知能力・生活習慣等の変化は、学校の成績に対しても影響を与えたのかを確認する。非認知能力・生活習慣等の変化が、2020年度の成績に与えた影響の分析結果を示したものが図表 45 である。分析では、2020年1月から2021年1月にかけての各非認知能力・生活習慣等の変化を説明変数として用いている。

全体としては、非認知能力や学校生活が改善（悪化）すると、学校の成績が改善（悪化）する傾向がある。一方で、小学生・中学生については、友達と遊ぶ頻度が増加（減少）すると、成績はむしろ悪化（改善）する傾向がある。また高校生については、生活習慣が悪化（改善）すると、むしろ成績が改善（悪化）する傾向がある。心身の健康の変化は、成績には明確な影響は与えていない。

図表 45 非認知能力・生活習慣等の変化が成績に与える影響

	(1) 小学生	(2) 中学生	(3) 高校生
非認知能力の変化	0.0832* (0.0463)	0.394*** (0.111)	0.351*** (0.118)
学校生活の変化	0.144*** (0.0518)	0.307*** (0.0814)	0.501*** (0.144)
生活習慣の変化	-0.0644 (0.0487)	0.0444 (0.0967)	-0.196* (0.104)
友達と遊ぶ頻度の変化	-0.0352** (0.0143)	-0.101*** (0.0342)	-0.0309 (0.0429)
心身の健康の変化	0.0466 (0.0620)	-0.0419 (0.0756)	-0.125 (0.118)
休校日数	-0.000566* (0.000303)	-0.000580 (0.000497)	0.000267 (0.000518)
サンプルサイズ	1,414	752	683
決定係数	0.936	0.918	0.810

(注) カッコ内は頑健標準誤差。*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1

表に示している以外に、各非認知能力・生活習慣等の2020年1月時点の数値と、2019年度の学校での成績を説明変数として加味している。

7. 分析結果のまとめと示唆

(1) 分析結果のまとめ

本調査では、新型コロナの感染拡大に伴う、臨時休校や学校生活・学校行事等の制限が、子どもたちにどのような影響を与えたのかを、小学生から高校生の子どもがいる世帯の親4,000人に対して実施した独自のアンケート調査を用いて分析した。分析の結果、勉強時間や生活時間の格差は、新型コロナによって拡大したことが確認された。また、非認知能力・生活習慣等は臨時休校の長期化によって低下している傾向があり、学校行事の中止・縮小がそれに拍車をかけた。

各項目の分析結果は以下のとおりである。

① 勉強時間

新型コロナによって多くの学校が臨時休校となっていた2020年5月は、全体として総勉強時間が減少していた。しかしながら世帯年収別にみると、相対的に年収の高い世帯では、勉強時間の減少幅が小さい。

また、世帯年収の高い世帯は臨時休校期間に学校外の勉強時間を増やし、学校再開後もそれが継続している。経済状況の良い子どもや、もともとの学力の高かった子どもは、学校外での勉強時間を増やすことによって、学校での勉強時間の減少を穴埋めしたといえる。

② 学校・自治体の取組との関係

双方向形式のオンライン授業を実施していた場合、勉強時間の落ち込みを防ぐ効果があった。しかしながら、もともと成績が悪かった子どもに対してはその効果は限定的だった。

世帯年収別にみると、世帯年収の多寡にかかわらず、双方向形式のオンライン授業は臨時休校期間中の勉強時間の落ち込みを防ぐ効果があった。しかしながら、低所得世帯の場合は、双方向形式のオンライン授業が提供されていた割合が低く、その点は教育格差の拡大要因となった。

③ 生活時間

臨時休校期間中は、全体としてスクリーンタイムが増加した。その傾向は、もともと成績の低かった子どもや一人親世帯でより強い。

④ 非認知能力・生活習慣等の変化と学校行事との関係

臨時休校期間が長くなると、非認知能力・生活習慣等が低下する傾向が強い。

学校行事の中止・縮小が非認知能力・生活習慣等に与えた影響をみると、小学生の場合は悪影響が大きい。低年齢児にとっては、学校行事が非認知能力や生活習慣等を涵養する場になっている可能性が示唆される。

(2) 今後に向けた示唆

臨時休校期間中は勉強時間・生活時間等の格差が拡大し、学校再開後もそれが残っている。そのため、厳しい状況に置かれた子どもに対する支援が重要となる。臨時休校下で有効だったのは、双方向形式のオンライン授業であり、オンデマンド教材や自主学習教材はあまり効果を発揮しなかった。臨時休校が今後再度必要となる場合に備えて、平時からそうしたインフラを整備しておく必要がある。

しかしながら、もともと学力の低かった子どもについては、双方向形式であってもオンライン授業が効果を発揮していない可能性がある。そうした子どもに対しては、個別最適化されたよりきめ細かな対応が必要となる。例えば海外の研究では、個別指導（対面・オンラインともに）は学習の遅れた子どもに対して効果的な支援策だとされている。

学校行事の中止・縮小は、特に低年齢児の非認知能力・生活習慣等に悪影響を与えているため、学校内外で失われた機会をカバーする努力が求められる。例えば、小学校の運動会や修学旅行など、非認知能力等への影響の大きい学校行事を重点化して行ったり、学校外の少人数制が維持できる環境において、特に低年齢児に対して、様々な体験の機会や生活支援を提供したりすることが考えられる。

以上

ご利用に際して

- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず「出所：日本財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング調査」と明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、日本財団もしくは三菱UFJリサーチ&コンサルティングまでご連絡ください。

参考資料：アンケート調査票

新型コロナウイルス感染症と子どもの貧困に関するアンケート調査

視点	項目	質問概要						
A_スクリーニング	(1) あなたの世帯についてお答えください。(1つに○) ※世帯とは、普段同居し生計をともにしている人々(世帯員)の集まりをいいます。 ※「夫婦」には、事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含まれます。	1. 単独世代 (1人世帯) 2. 夫婦のみ世帯 3. 夫婦と未婚の子のみの世帯 4. 一人親と未婚の子のみの世帯 5. 3世代世帯 6. その他の世帯						
	(2) 同居している小学校から高校に通うあなたの子ども(養子を含む)はいますか。	1. いる 2. いない						
	※(2)で1を選んだ場合のみ。 (3) あなたと同居している方と、そのうち小学校から高校に通うあなたの子ども(養子を含む)はそれぞれ何人いますか。 ※同居人数にはあなたを含めてご回答ください。	<table border="1"> <tr> <td>同居している方 (あなたを含めた人数)</td> <td>うち、小学校から高校に通う子ども</td> <td>うち未就学の子ども</td> </tr> <tr> <td>_____人</td> <td>_____人</td> <td>_____人</td> </tr> </table>	同居している方 (あなたを含めた人数)	うち、小学校から高校に通う子ども	うち未就学の子ども	_____人	_____人	_____人
	同居している方 (あなたを含めた人数)	うち、小学校から高校に通う子ども	うち未就学の子ども					
_____人	_____人	_____人						
(4) 一昨年(2019年1月から12月)のあなたの世帯の年間所得をお	1. 50万円未満 2. 50~100万円未満							

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要
	<p>教えてください。(1つに○)</p> <p>※所得には、残業手当や賞与(ボーナス)、家屋や土地を貸すこと によって得た所得、金融資産から得られた 利子、配当金、公的年金・雇用保険・児童手当等の社会 保障給付金を含めてご回答ください。ただし、家や土地の売却代金、引き出した預貯金、生命保険・損害保険からの受取金を除きます。</p>	<p>3. 100～150万円未満</p> <p>4. 150～200万円未満</p> <p>5. 200～250万円未満</p> <p>6. 250～300万円未満</p> <p>7. 300～350万円未満</p> <p>8. 350～400万円未満</p> <p>9. 400～450万円未満</p> <p>10. 450～500万円未満</p> <p>11. 500～550万円未満</p> <p>12. 550～600万円未満</p> <p>13. 600～650万円未満</p> <p>14. 650～700万円未満</p> <p>15. 700～750万円未満</p> <p>16. 750～800万円未満</p> <p>17. 800～850万円未満</p> <p>18. 850～900万円未満</p> <p>19. 900～950万円未満</p> <p>20. 950～1000万円未満</p> <p>21. 1000～1100万円未満</p> <p>22. 1100～1200万円未満</p> <p>23. 1200～1500万円未満</p> <p>24. 1500～2000万円未満</p> <p>25. 2000万円以上</p>

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要													
		26. わからない/答えたくない													
本調査															
B_世帯属性	(5) あなたの性別をお答えください。(1つに○)	1. 男性 2. 女性 3. その他													
	(6) あなたの生年月日を教えてください。	西暦_____年___月___日													
	(7) あなたの婚姻関係についてお答えください。(1つに○) ※「配偶者」には、事実上夫婦として生活しているが、婚姻届を提出していない場合も含まれます。(以下同様)	1. 配偶者がいる 2. 離別・死別した 3. 配偶者がいたことはない ※2・3を選択した場合、以降、配偶者の設問は表示しない													
	(8) あなたとあなたの配偶者の最終学歴をお答えください。(それぞれひとつずつ)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>あなた</th> <th>あなたの配偶者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 小学校・中学校卒</td> <td>1. 小学校・中学校卒</td> </tr> <tr> <td>2. 高等学校卒</td> <td>2. 高等学校卒</td> </tr> <tr> <td>3. 専門学校卒</td> <td>3. 専門学校卒</td> </tr> <tr> <td>4. 短期大学・高等専門学校卒</td> <td>4. 短期大学・高等専門学校卒</td> </tr> <tr> <td>5. 大学卒</td> <td>5. 大学卒</td> </tr> <tr> <td>6. 大学院卒</td> <td>6. 大学院卒</td> </tr> </tbody> </table>	あなた	あなたの配偶者	1. 小学校・中学校卒	1. 小学校・中学校卒	2. 高等学校卒	2. 高等学校卒	3. 専門学校卒	3. 専門学校卒	4. 短期大学・高等専門学校卒	4. 短期大学・高等専門学校卒	5. 大学卒	5. 大学卒	6. 大学院卒
あなた	あなたの配偶者														
1. 小学校・中学校卒	1. 小学校・中学校卒														
2. 高等学校卒	2. 高等学校卒														
3. 専門学校卒	3. 専門学校卒														
4. 短期大学・高等専門学校卒	4. 短期大学・高等専門学校卒														
5. 大学卒	5. 大学卒														
6. 大学院卒	6. 大学院卒														

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要								
	(9) あなたの世帯で受給されている社会保障給付を全てお答えください。(いくつでも)	<ol style="list-style-type: none"> 生活保護 就学援助 児童手当（特別給付を含む） 児童扶養手当 失業給付 公的年金給付 いずれも受給していない 								
	(10)あなたのお住まいの都道府県をお答えください。	都道府県をプルダウンで選択								
	(11)あなたのお住まいの市区町村をお答えください	記述式回答								
C1_新型コロナウイルス感染症の感染拡大前後の就業状況	(12) 新型コロナウイルス感染症拡大前後の各時期 における、あなたの就業状態をお答えください。複数当てはまるものは、もっとも該当するものをお答えください。例えば学業のかたわらでアルバイトをしていた場合は、「仕事をしておらず、求職活動もしていなかった（学生等を含む）」を選択ください。また休職・休業されていた場合は、「休職・休業	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>昨年 (2020年) 1月頃 (感染拡大前)</th> <th>昨年 (2020年) 5月頃 (全国的な緊急事態宣言中)</th> <th>今年 (2021年) 1月頃</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正規の職員・従業員として働いていた</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		昨年 (2020年) 1月頃 (感染拡大前)	昨年 (2020年) 5月頃 (全国的な緊急事態宣言中)	今年 (2021年) 1月頃	正規の職員・従業員として働いていた	1	1	1
	昨年 (2020年) 1月頃 (感染拡大前)	昨年 (2020年) 5月頃 (全国的な緊急事態宣言中)	今年 (2021年) 1月頃							
正規の職員・従業員として働いていた	1	1	1							

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要			
	<p>していた」を選択ください。(それぞれひとつずつ)</p>	パート・アルバイトとして働いていた	2	2	2
		派遣社員・契約社員・嘱託として働いていた	3	3	3
		会社などの役員として働いていた	4	4	4
		自営業主として働いていた	5	5	5
		自営業の手伝いとして働いていた	6	6	6
		内職していた	7	7	7
		休職・休業していた	8	8	8
		仕事をしておらず、求職活動をしていた	9	9	9
		仕事をしておらず、求職活動もしていなかった(学生等を含む)	10	10	10
	<p>(13) 新型コロナウイルス感染症拡大前後の各時期における、あなたの配偶者就業状態をお答えください。複数当てはまるものは、もっとも該当するものをお答えください。例えば学業のかたわらでアルバイトをしていた場合は、「仕事をしておらず、求職活動もしていなかった(学生等を含む)」を選択ください。また休</p>		<p>昨年 (2020年) 1月頃 (感染拡大前)</p>	<p>昨年 (2020年) 5月頃 (全国的な緊急事態宣言中)</p>	<p>今年 (2021年) 1月頃</p>
		正規の職員・従業員として働いていた	1	1	1

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要																																
	職・休業されていた場合は、「休職・休業していた」を選択ください。(それぞれひとつずつ)	パート・アルバイトとして働いていた	2	2	2																													
		派遣社員・契約社員・嘱託として働いていた	3	3	3																													
		会社などの役員として働いていた	4	4	4																													
		自営業主として働いていた	5	5	5																													
		自営業の手伝いとして働いていた	6	6	6																													
		内職していた	7	7	7																													
		休職・休業していた	8	8	8																													
		仕事をしておらず、求職活動をしていた	9	9	9																													
		仕事をしておらず、求職活動もしていなかった(学生等を含む)	10	10	10																													
C_家計の状況	(14)2019～2021年の世帯の年間(1月～12月)可処分所得〔所得税・住民税・社会保険料が差し引かれた後の実際に使える収入(手取り収入)〕の合計額をお答えください。2021年については見込みをお答えください。(それぞれひとつずつ) 注意事項(可処分所得に「含める」	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2019年</th> <th>2020年</th> <th>2021年 (見込み)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50万円未満</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>50～100万円未満</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>100～125万円未満</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>125～150万円未満</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>150～175万円未満</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>175～200万円未満</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>200～225万円未満</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>		2019年	2020年	2021年 (見込み)	50万円未満	1	1	1	50～100万円未満	2	2	2	100～125万円未満	3	3	3	125～150万円未満	4	4	4	150～175万円未満	5	5	5	175～200万円未満	6	6	6	200～225万円未満	7	7	7
	2019年	2020年	2021年 (見込み)																															
50万円未満	1	1	1																															
50～100万円未満	2	2	2																															
100～125万円未満	3	3	3																															
125～150万円未満	4	4	4																															
150～175万円未満	5	5	5																															
175～200万円未満	6	6	6																															
200～225万円未満	7	7	7																															

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要			
<p>もの、「除く」ものは以下の通りです)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お勤めの方は、<u>給与・手当・賞与等の手取り額を含めて</u>ください。 ● 自営業、農林漁業、講演執筆業、不動産賃貸業等を営んでいる方は、売上高から<u>経営上の諸経費を差し引いた純益を含めて</u>ください。 ● 児童手当、雇用保険、労災保険、生活保護、公的年金保険等の<u>現金給付や企業年金、個人年金等を含めて</u>ください。 ● <u>地代、家賃収入、利子、配当金等は含めて</u>ください。 ● 退職金や相続、不動産・株式・債券等の財産の売却によって得た<u>一時的な収入は除いて</u>ください。 ● <u>企業年金や個人年金等への拠出額は差し引いて</u>ください。 ● 収入として得ている物品がある方や、米・野菜・肉・魚等の自 	<p>もの、「除く」ものは以下の通りです)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お勤めの方は、<u>給与・手当・賞与等の手取り額を含めて</u>ください。 ● 自営業、農林漁業、講演執筆業、不動産賃貸業等を営んでいる方は、売上高から<u>経営上の諸経費を差し引いた純益を含めて</u>ください。 ● 児童手当、雇用保険、労災保険、生活保護、公的年金保険等の<u>現金給付や企業年金、個人年金等を含めて</u>ください。 ● <u>地代、家賃収入、利子、配当金等は含めて</u>ください。 ● 退職金や相続、不動産・株式・債券等の財産の売却によって得た<u>一時的な収入は除いて</u>ください。 ● <u>企業年金や個人年金等への拠出額は差し引いて</u>ください。 ● 収入として得ている物品がある方や、米・野菜・肉・魚等の自 	225～250 万円未満	8	8	8
		250～275 万円未満	9	9	9
		275～300 万円未満	10	10	10
		300～325 万円未満	11	11	11
		325～350 万円未満	12	12	12
		350～375 万円未満	13	13	13
		375～400 万円未満	14	14	14
		400～425 万円未満	15	15	15
		425～450 万円未満	16	16	16
		450～475 万円未満	17	17	17
		475～500 万円未満	18	18	18
		500～550 万円未満	19	19	19
		550～600 万円未満	20	20	20
		600～650 万円未満	21	21	21
		650～700 万円未満	22	22	22
		700～750 万円未満	23	23	23
		750～800 万円未満	24	24	24
800～850 万円未満	24	24	24		
850～900 万円未満	26	26	26		
900～950 万円未満	27	27	27		
950～1000 万円未満	28	28	28		
1000～1100 万円未満	29	29	29		

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要																																												
	<p>家産物及びあなたの店の商品のうち家計で消費した分がある方は、<u>それらを金銭で評価したおおよその見積額を含めて</u>ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● <u>親族等からの仕送り金を含めて</u>ください。 ● <u>親族等に対する仕送り金は除いて</u>ください。 		<table border="1"> <tr><td>1100～1200 万円未満</td><td>30</td><td>30</td><td>30</td></tr> <tr><td>1200～1500 万円未満</td><td>31</td><td>31</td><td>31</td></tr> <tr><td>1500～2000 万円未満</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td></tr> <tr><td>2000～3000 万円未満</td><td>33</td><td>33</td><td>33</td></tr> <tr><td>3000～4000 万円未満</td><td>34</td><td>34</td><td>34</td></tr> <tr><td>4000～5000 万円未満</td><td>35</td><td>35</td><td>35</td></tr> <tr><td>5000 万円以上</td><td>36</td><td>36</td><td>36</td></tr> <tr><td>わからない</td><td>37</td><td>37</td><td>37</td></tr> </table>	1100～1200 万円未満	30	30	30	1200～1500 万円未満	31	31	31	1500～2000 万円未満	32	32	32	2000～3000 万円未満	33	33	33	3000～4000 万円未満	34	34	34	4000～5000 万円未満	35	35	35	5000 万円以上	36	36	36	わからない	37	37	37											
1100～1200 万円未満	30	30	30																																											
1200～1500 万円未満	31	31	31																																											
1500～2000 万円未満	32	32	32																																											
2000～3000 万円未満	33	33	33																																											
3000～4000 万円未満	34	34	34																																											
4000～5000 万円未満	35	35	35																																											
5000 万円以上	36	36	36																																											
わからない	37	37	37																																											
	<p>(15)2019～2021 年に、<u>世帯で支払った固定資産税・都市計画税の合計額</u>をお答えください。2021 年については見込みをお答えください。<i>(それぞれひとつずつ)</i></p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2019 年</th> <th>2020 年</th> <th>2021 年 (見込み)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>支払っていない</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>1 円～5 万円未満</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>5～10 万円未満</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>10～15 万円未満</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>15～20 万円未満</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr><td>20～25 万円未満</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>25～30 万円未満</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr> <tr><td>30～35 万円未満</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr> <tr><td>35～40 万円未満</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td></tr> </tbody> </table>		2019 年	2020 年	2021 年 (見込み)	支払っていない	1	1	1	1 円～5 万円未満	2	2	2	5～10 万円未満	3	3	3	10～15 万円未満	4	4	4	15～20 万円未満	5	5	5	20～25 万円未満	6	6	6	25～30 万円未満	7	7	7	30～35 万円未満	8	8	8	35～40 万円未満	9	9	9			
	2019 年	2020 年	2021 年 (見込み)																																											
支払っていない	1	1	1																																											
1 円～5 万円未満	2	2	2																																											
5～10 万円未満	3	3	3																																											
10～15 万円未満	4	4	4																																											
15～20 万円未満	5	5	5																																											
20～25 万円未満	6	6	6																																											
25～30 万円未満	7	7	7																																											
30～35 万円未満	8	8	8																																											
35～40 万円未満	9	9	9																																											

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要				
		40～45 万円未満	10	10	10	
		45～50 万円未満	11	11	11	
		50～75 万円未満	12	12	12	
		75～100 万円未満	13	13	13	
		100～200 万円未満	14	14	14	
		200 万円以上	15	15	15	
		分からない	16	16	16	
	<p>(16) 世帯で保有している自動車台数を、自家用乗用車（軽自動車除く）と軽自動車・二輪車に分けてお答えください。<i>(それぞれひとつずつ)</i></p>			自家用乗用車 （軽自動車除く）	軽自動車・二輪車	
			保有していない	1	1	
			1 台	2	2	

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要			
		2台	3	3	
		3台	4	4	
		4台	5	5	
		5台以上	6	6	
D_子どもの状況・教育状況					
	<p>(17)就学中の子どものいる方にお聞きします。就学中の子どものうち、最も低年齢の子どもの学年をお答えください。</p> <p>※最も低年齢の子どもの複数いらっしゃる場合(双子の場合等)は、任意の子どものみを想定してご回答ください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学1年生 2. 小学2年生 3. 小学3年生 4. 小学4年生 5. 小学5年生 6. 小学6年生 7. 中学1年生 8. 中学2年生 9. 中学3年生 10. 高校・高等専門学校1年生 11. 高校・高等専門学校2年生 12. 高校・高等専門学校3年生 			
	<p>(18) お子さんが通われている学校に</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国立 2. 公立 			

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要
	<p>ついてお聞きします。その学校は国立、公立、私立のどれですか。</p>	<p>3. 私立</p>
	<p>(19)Q(17)で回答された〇〇〇(Q17)回答テキスト再掲)のお子さんが通われている学校で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、昨年(2020年)2月から6月にかけて臨時休校(登校禁止)がありましたか。臨時休校(登校禁止)になった合計期間をお答えください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨時休校(登校禁止)にはなっていない 2. 1週間ほど臨時休校(登校禁止)になった 3. 2週間ほど臨時休校(登校禁止)になった 4. 3~4週間ほど臨時休校(登校禁止)になった 5. 1~2か月ほど臨時休校(登校禁止)になった 6. 2~3か月ほど臨時休校(登校禁止)になった 7. 4か月以上臨時休校(登校禁止)になった
	<p>(20)Q(17)で回答された〇〇〇(Q17)回答テキスト再掲)のお子さんが通われている学校で、昨年(2020年)7月以降に新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休校(登校禁止)はありましたか。あった場合はその合計期間をお答えください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨時休校(登校禁止)にはなっていない 2. 1週間ほど臨時休校(登校禁止)になった 3. 2週間ほど臨時休校(登校禁止)になった 4. 3~4週間ほど臨時休校(登校禁止)になった 5. 1~2か月ほど臨時休校(登校禁止)になった 6. 2~3か月ほど臨時休校(登校禁止)になった 7. 4か月以上臨時休校(登校禁止)になった
	<p>(21)Q(17)で回答された〇〇〇(Q17)</p>	<p>1. 短縮されていない</p>

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要																																																											
	<p>回答テキスト再掲)のお子さんが通われている学校で、昨年(2020年)の夏休みは短縮されましたか。短縮された場合はその期間をお答えください。</p>	<p>2. 数日短縮された 3. 1週間ほど短縮された 4. 2週間ほど短縮された 5. 3週間ほど短縮された 6. 1か月ほど短縮された 7. 1か月以上短縮された</p>																																																											
	<p>(22)Q(17)で回答された○○○(Q17回答テキスト再掲)のお子さんが通われている学校で、今年度(2020年度)の学校行事が予定通り行われたかお答えください。(それぞれひとつずつ)</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="837 632 1281 922"></th> <th data-bbox="1281 632 1420 922">予定通り実施された</th> <th data-bbox="1420 632 1559 922">規模の縮小や時期の変更はあったものの実施された</th> <th data-bbox="1559 632 1702 922">中止になった</th> <th data-bbox="1702 632 1845 922">当初から予定されていた</th> <th data-bbox="1845 632 1984 922">わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="837 922 1281 970">1. 運動会・体育祭・球技大会</td> <td data-bbox="1281 922 1420 970">1</td> <td data-bbox="1420 922 1559 970">2</td> <td data-bbox="1559 922 1702 970">3</td> <td data-bbox="1702 922 1845 970">4</td> <td data-bbox="1845 922 1984 970">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="837 970 1281 1018">2. 学芸会・文化祭</td> <td data-bbox="1281 970 1420 1018">1</td> <td data-bbox="1420 970 1559 1018">2</td> <td data-bbox="1559 970 1702 1018">3</td> <td data-bbox="1702 970 1845 1018">4</td> <td data-bbox="1845 970 1984 1018">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="837 1018 1281 1066">3. 作品展</td> <td data-bbox="1281 1018 1420 1066">1</td> <td data-bbox="1420 1018 1559 1066">2</td> <td data-bbox="1559 1018 1702 1066">3</td> <td data-bbox="1702 1018 1845 1066">4</td> <td data-bbox="1845 1018 1984 1066">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="837 1066 1281 1114">4. 音楽会・合唱コンクール</td> <td data-bbox="1281 1066 1420 1114">1</td> <td data-bbox="1420 1066 1559 1114">2</td> <td data-bbox="1559 1066 1702 1114">3</td> <td data-bbox="1702 1066 1845 1114">4</td> <td data-bbox="1845 1066 1984 1114">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="837 1114 1281 1161">5. 遠足</td> <td data-bbox="1281 1114 1420 1161">1</td> <td data-bbox="1420 1114 1559 1161">2</td> <td data-bbox="1559 1114 1702 1161">3</td> <td data-bbox="1702 1114 1845 1161">4</td> <td data-bbox="1845 1114 1984 1161">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="837 1161 1281 1209">6. 修学旅行・移動教室</td> <td data-bbox="1281 1161 1420 1209">1</td> <td data-bbox="1420 1161 1559 1209">2</td> <td data-bbox="1559 1161 1702 1209">3</td> <td data-bbox="1702 1161 1845 1209">4</td> <td data-bbox="1845 1161 1984 1209">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="837 1209 1281 1257">7. スキー教室</td> <td data-bbox="1281 1209 1420 1257">1</td> <td data-bbox="1420 1209 1559 1257">2</td> <td data-bbox="1559 1209 1702 1257">3</td> <td data-bbox="1702 1209 1845 1257">4</td> <td data-bbox="1845 1209 1984 1257">5</td> </tr> <tr> <td data-bbox="837 1257 1281 1305">8. 海外研修</td> <td data-bbox="1281 1257 1420 1305">1</td> <td data-bbox="1420 1257 1559 1305">2</td> <td data-bbox="1559 1257 1702 1305">3</td> <td data-bbox="1702 1257 1845 1305">4</td> <td data-bbox="1845 1257 1984 1305">5</td> </tr> </tbody> </table>							予定通り実施された	規模の縮小や時期の変更はあったものの実施された	中止になった	当初から予定されていた	わからない	1. 運動会・体育祭・球技大会	1	2	3	4	5	2. 学芸会・文化祭	1	2	3	4	5	3. 作品展	1	2	3	4	5	4. 音楽会・合唱コンクール	1	2	3	4	5	5. 遠足	1	2	3	4	5	6. 修学旅行・移動教室	1	2	3	4	5	7. スキー教室	1	2	3	4	5	8. 海外研修	1	2	3	4	5
	予定通り実施された	規模の縮小や時期の変更はあったものの実施された	中止になった	当初から予定されていた	わからない																																																								
1. 運動会・体育祭・球技大会	1	2	3	4	5																																																								
2. 学芸会・文化祭	1	2	3	4	5																																																								
3. 作品展	1	2	3	4	5																																																								
4. 音楽会・合唱コンクール	1	2	3	4	5																																																								
5. 遠足	1	2	3	4	5																																																								
6. 修学旅行・移動教室	1	2	3	4	5																																																								
7. スキー教室	1	2	3	4	5																																																								
8. 海外研修	1	2	3	4	5																																																								

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要			
	<p>(23) 新型コロナウイルス感染症拡大前後の各時期において、利用していた学習塾・家庭教師等をお答えください。(それぞれいくつでも)</p>		<p>1</p> <p>昨年(2020年) (感染拡大前) 1月頃</p>	<p>2</p> <p>昨年(2020年) (全国的な緊急事態宣言中) 5月頃</p>	<p>3</p> <p>今年(2021年) 1月頃</p>
	<p>(24) 新型コロナウイルス感染症拡大前後の各時期において、学校・自</p>		<p>1</p>	<p>2</p>	<p>3</p>

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要			
	治体や学習塾等で利用した学習手段・教材をお答えください。 (それぞれいくつでも)		昨年 (2020年) (感染拡大前) 1月頃	(全国的な緊急事態宣言中) 昨年 (2020年) 5月頃	今年 (2021年) 1月頃
		学校・自治体の提供			
		双方向形式のオンライン授業	1	1	1
		オンデマンド（録画）形式の授業	2	2	2
		自主学習用の課題	3	3	3
		テレビ局などが提供する学習素材	4	4	4
		1人1台のパソコン・タブレット PC	5	5	5
		共用のパソコン・タブレット PC	6	6	6
		学習塾等の提供			
		双方向形式のオンライン授業	7	7	7
		オンデマンド（録画）形式の授業	8	8	8
		自主学習用の課題	9	9	9
		テレビ局などが提供する学習素材	10	10	10
		1人1台のパソコン・タブレット PC	11	11	11

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要			
		共用のパソコン・タブレット PC	12	12	12
		学校・自治体や学習塾等で上記の学習手段・教材は利用していない	13	13	13
	<p>(25)Q(17)で回答された〇〇〇(Q17 回答テキスト再掲)のお子さんについて、新型コロナウイルス感染症拡大前後の各時期において、学校のある平日の平均的な1日のおおよその時間の使い方を、合計が24時間になるようにお答えください。0時間の場合は「0」を記入してください。</p> <p>※小学校に入学したばかりなどで今年度から通学し始めた場合は、昨年(2020年)1月頃の「学校での勉強時間」および「学校での課外活動の時間」は「0」を記入してください。</p>		<p>1 1月頃の平日 昨年(2020年)</p>	<p>2 5月頃の平日 昨年(2020年)</p>	<p>3 1月頃の平日 今年(2021年)</p>
		睡眠	() 時間	() 時間	() 時間
		学校での勉強時間(宿題・オンライン授業等を含む)	() 時間	() 時間	() 時間
		学校での課外活動の時間(部活等)	() 時間	() 時間	() 時間
		学校外の勉強時間(学習塾等)	() 時間	() 時間	() 時間
		学校外の習い事等の時間(勉強以外)	() 時間	() 時間	() 時間
		テレビやゲーム、インターネット	() 時間	() 時間	() 時間

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要			
		ット、携帯電話の時間			
		外で遊ぶ時間	() 時間	() 時間	() 時間
		その他の時間 (食事・入浴・通学等)	() 時間	() 時間	() 時間
		合計	24 時間	24 時間	24 時間

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

(26)Q(17)で回答された○○○(Q17

回答テキスト再掲)のお子さん
 が行っている**学校内**の部活動や
 クラブ活動と、**学校外**の習い事
 やクラブ活動をそれぞれお答え
 ください。(それぞれいくつで
 も)

	1	2
	学校内の部活動・クラブ活動	学校外の習い事・クラブ活動
陸上競技	1	1
テニス・ソフトテニス	2	2
野球・ソフトボール	3	3
サッカー	4	4
ラグビー・アメリカンフットボール	5	5
水泳（競泳・飛込・水球・シンクロ等）	6	6
体操競技・新体操	7	7
卓球	8	8
バドミントン	9	9
バスケットボール	10	10
バレーボール	11	11
武道（柔道・剣道・空手・弓道・相撲等）	12	12

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

	ダンス	13	13
	その他の運動系活動	14	14
	演劇	15	15
	合唱	16	16
	吹奏楽・管弦楽	17	17
	軽音楽	18	18
	器楽（ピアノ・バイオリン等）・声楽の音楽教室	19	19
	美術・工芸	20	20
	茶道・華道	21	21
	書道	22	22
	囲碁・将棋・チェス	23	23
	自然科学（物理・化学・生物等）	24	24
	その他の文化系活動	25	25
	特に部活動、習い事等はしていない	26	26

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要																																																																																
	<p>(27)Q(17)で回答された○○○(Q17 テキスト再掲)のお子さんの昨 年度(2019年度)の学校での成 績および今年度(2020年度)の 成績見込みは学年の中でどのく らいですか。(それぞれひとつず つ) ※問21で「小学1年生」と 回答した場合、2019年度は表示 しない</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>下 の方</th> <th colspan="2">←</th> <th>真 ん 中</th> <th colspan="2">→</th> <th>上 の 方</th> </tr> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="8">2019年度</td> </tr> <tr> <td>全科目</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>算数・数学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td colspan="8">2020年度(見込み)</td> </tr> <tr> <td>全科目</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>国語</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>算数・数学</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>		下 の方	←		真 ん 中	→		上 の 方		1	2	3	4	5	6	7	2019年度								全科目	1	2	3	4	5	6	7	国語	1	2	3	4	5	6	7	算数・数学	1	2	3	4	5	6	7	2020年度(見込み)								全科目	1	2	3	4	5	6	7	国語	1	2	3	4	5	6	7	算数・数学	1	2	3	4	5	6	7
	下 の方	←		真 ん 中	→		上 の 方																																																																											
	1	2	3	4	5	6	7																																																																											
2019年度																																																																																		
全科目	1	2	3	4	5	6	7																																																																											
国語	1	2	3	4	5	6	7																																																																											
算数・数学	1	2	3	4	5	6	7																																																																											
2020年度(見込み)																																																																																		
全科目	1	2	3	4	5	6	7																																																																											
国語	1	2	3	4	5	6	7																																																																											
算数・数学	1	2	3	4	5	6	7																																																																											
	<p>(28)Q(17)で回答された○○○(Q17 回答テキスト再掲)のお子さん について、新型コロナウイルス 感染症拡大前後の各時期におけ る状況をお答えください。</p>																																																																																	

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要					
			よくあてはまる	どちらかというとはまる	どちらかというとはまる	まったくあてはまらない	わからない
		1. 自分自身に自信を持っていた：昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5
		2. 自分自身に自信を持っていた：昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5
		3. 自分自身に自信を持っていた：今年(2021年)1月頃	1	2	3	4	5
		4. 思ったことを言葉に出して表現できていた：昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5
		5. 思ったことを言葉に出して表現できていた：昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5
		6. 思ったことを言葉に出して表現できてい	1	2	3	4	5

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要						
		た：今年(2021年)1月頃						
		7. 難しいことでも前向きに取り組んでいた： 昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5	
		8. 難しいことでも前向きに取り組んでいた： 昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5	
		9. 難しいことでも前向きに取り組んでいた： 今年(2021年)1月頃	1	2	3	4	5	
		10. 勉強に対して集中できていた：昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5	
		11. 勉強に対して集中できていた：昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5	
		12. 勉強に対して集中できていた：今年(2021年)1月頃	1	2	3	4	5	
	<p>(29)Q(17)で回答された○○○(Q17 回答テキスト再掲)のお子さんについて、新型コロナウイルス感染症拡大前後の各時期における状況をお答えください。(それぞれひとつずつ)</p>							

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要					
			よくあてはまる	どちらかというとはまる	どちらかというとはまる	まったくあてはまらない	わからない
		1. 学校の勉強についていけていた：昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5
		2. 学校の勉強についていけていた：昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5
		3. 学校の勉強についていけていた：今年(2021年)1月頃	1	2	3	4	5
		4. 学校での生活や活動が充実していた：昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5
		5. 学校での生活や活動が充実していた：昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5
		6. 学校での生活や活動が充実していた：今年	1	2	3	4	5

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要						
		(2021年)1月頃						
		7. 食生活(栄養面・回数)が安定していた：昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5	
		8. 食生活(栄養面・回数)が安定していた：昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5	
		9. 食生活(栄養面・回数)が安定していた：今年(2021年)1月頃						
		10. 規則正しく起床・就寝できていた：昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5	
		11. 規則正しく起床・就寝できていた：昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5	
		12. 規則正しく起床・就寝できていた：今年(2021年)1月頃	1	2	3	4	5	
	(30)Q(17)で回答された○○○(Q17 回答テキスト再掲)のお子さんについて、 新型コロナウイルス感染症拡大前後の各時期 における状況をお答えください。(それぞれひとつずつ)							

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要					
			よくあてはまる	どちらかというにあてはまる	どちらかというにあてはまらない	まったくあてはまらない	わからない
		1. 友達と遊ぶ頻度が多かった:昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5
		2. 友達と遊ぶ頻度が多かった:昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5
		3. 友達と遊ぶ頻度が多かった:今年(2021年)1月頃	1	2	3	4	5
		4. 家族との関係が良かった:昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5
		5. 家族との関係が良かった:昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5
		6. 家族との関係が良かった:今年(2021年)1月	1	2	3	4	5

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要												
			頃											
		7.	体調が安定していた：昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5						
		8.	体調が安定していた：昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5						
		9.	体調が安定していた：今年(2021年)1月頃	1	2	3	4	5						
		10.	精神的に安定していた：昨年(2020年)1月頃	1	2	3	4	5						
		11.	精神的に安定していた：昨年(2020年)5月頃	1	2	3	4	5						
		12.	精神的に安定していた：今年(2021年)1月頃	1	2	3	4	5						
	<p>(31) オンライン授業等が行われるときに利用できる ICT 機器としてあなたの世帯で保有しているものをお答えください。(いくつでも)</p> <p>(32) あなたの家庭のネットワークの接続方法をお答えください。(いくつでも)</p>	<p>1. PC</p> <p>2. タブレット</p> <p>3. スマートフォン</p> <p>4. プリンター</p> <p>5. 世帯では保有していないが、学校からタブレット等が貸与されている</p> <p>6. いずれも保有していない</p> <p>1. 光回線</p> <p>2. モバイル Wi-Fi</p> <p>3. ケーブルテレビ</p> <p>4. スマートフォン・携帯電話の回線</p>												

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要
		5. ADSL 6. その他 7. わからない
	(33) 子どもがオンライン授業等を落ち着いて受けられる環境がありますか。	1. ある 2. 兄弟姉妹と同時に受けるのは難しい 3. ない
	(34) (子どもが小学校6年生・中学校3年生・高校3年生のいずれかの場合のみ表示) Q(17)で回答された○○○(Q17回答テキスト再掲)のお子さんは、新型コロナウイルス拡大前に希望していた進路に、2021年4月から進むことが出来そうですか。(いくつでも)	1. 希望していた通り、もしくは希望以上の進路に進むことができる予定 2. 学費などの経済的な理由によって希望していた進路を変更した 3. 学力的な理由により進路を変更した 4. オンライン教育等のインフラが充実している進路に変更した 5. 新型コロナウイルスの感染を懸念して、都市部の学校や就職先に進むことを断念した 6. 新型コロナウイルスの感染を懸念して、海外への留学や就職を断念した ※1を選択した場合は他の選択肢を選ばない。
E_あなたご自身の状況	(35)現在のあなたご自身の健康状態をお答えください。(1つに○)	1. よい 2. まあよい 3. ふつう 4. あまりよくない 5. よくない

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要																																											
	(36) 次の質問について、あなたご自身は過去 1 か月の間はどのようなでしたか。(それぞれひとつ)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>いつも</td> <td>たいてい</td> <td>ときどき</td> <td>少しだけ</td> <td>まったくない</td> </tr> <tr> <td>1. 神経過敏に感じましたか</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2. 絶望的だと感じましたか</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>3. そわそわ、落ち着かなく感じましたか</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>4. 気分が沈み込んで、何が起き起こっても気が晴れないように感じましたか</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>5. 何をするのも骨折りだと感じましたか</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>6. 自分は価値のない人間だと感じましたか</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </table>		いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない	1. 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5	2. 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5	3. そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5	4. 気分が沈み込んで、何が起き起こっても気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5	5. 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5	6. 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5	
	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない																																								
1. 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5																																								
2. 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5																																								
3. そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5																																								
4. 気分が沈み込んで、何が起き起こっても気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5																																								
5. 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5																																								
6. 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5																																								
	(37) 新型コロナウイルス感染症が拡大した昨年(2020年)2月以降、お子さんの勉強などについて、家庭や学校は十分にみてあげられていると思いますか。(それぞれひとつ)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>十分に見てあげられている</td> <td>ある程度見てあげられている</td> <td>あまり見てあげられていない</td> <td>全く見てあげられていない</td> <td>見てあげる必要はない</td> <td>わからない</td> </tr> </table>		十分に見てあげられている	ある程度見てあげられている	あまり見てあげられていない	全く見てあげられていない	見てあげる必要はない	わからない																																				
	十分に見てあげられている	ある程度見てあげられている	あまり見てあげられていない	全く見てあげられていない	見てあげる必要はない	わからない																																							

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

視点	項目	質問概要						
		【学校】						
		1. お子さんの勉強	1	2	3	4	5	6
		2. お子さんの課外活動	1	2	3	4	5	6
		3. お子さんの生活習慣	1	2	3	4	5	6
		【家庭】						
		4. お子さんの勉強	1	2	3	4	5	6
		5. お子さんの課外活動	1	2	3	4	5	6
		6. お子さんの生活習慣	1	2	3	4	5	6

ご利用に際して

- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず「出所：日本財団・三菱UFJリサーチ&コンサルティング調査」と明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、日本財団もしくは三菱UFJリサーチ&コンサルティングまでご連絡ください。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。